

# 市民アンケート調査 報告書

姫路市

2021 年 9 月

## 目 次

市民アンケート調査 .....	1
1 調査概要 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査対象 .....	1
(3) 回収数 .....	1
(4) 調査方法 .....	1
(5) 調査時期 .....	1
2 調査結果 .....	2
(1) 日本人への調査結果 .....	2
(2) 外国人への調査結果 .....	13
(3) アンケートから見える課題 .....	37

# 市民アンケート調査

## 1 調査概要

---

### (1) 調査の目的

本調査は、姫路市在住の外国人市民及び日本人市民の意識・要望を把握し、今後の国際化推進・多文化共生施策に向けた事業展開に役立てることを目的とする。

### (2) 調査対象

①満 18 歳以上の市民から無作為抽出した 1,500 人

②市内に居住する満 18 歳以上の外国人市民約 1,100 人

(市内の日本語教室、企業、大学等に依頼し、外国人市民へのアンケート回答を協力依頼した。)

### (3) 回収数

日本人 610 件、外国人 476 件

### (4) 調査方法

郵送による配布・回収

※外国人市民へは、英語、インドネシア語、中国語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語の調査票を対象者に合わせて配布した

### (5) 調査時期

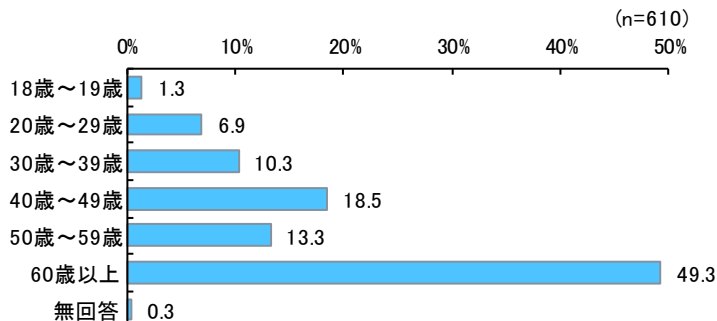
令和 2 年 9 月～同年 10 月

## 2 調査結果

### (1) 日本人への調査結果

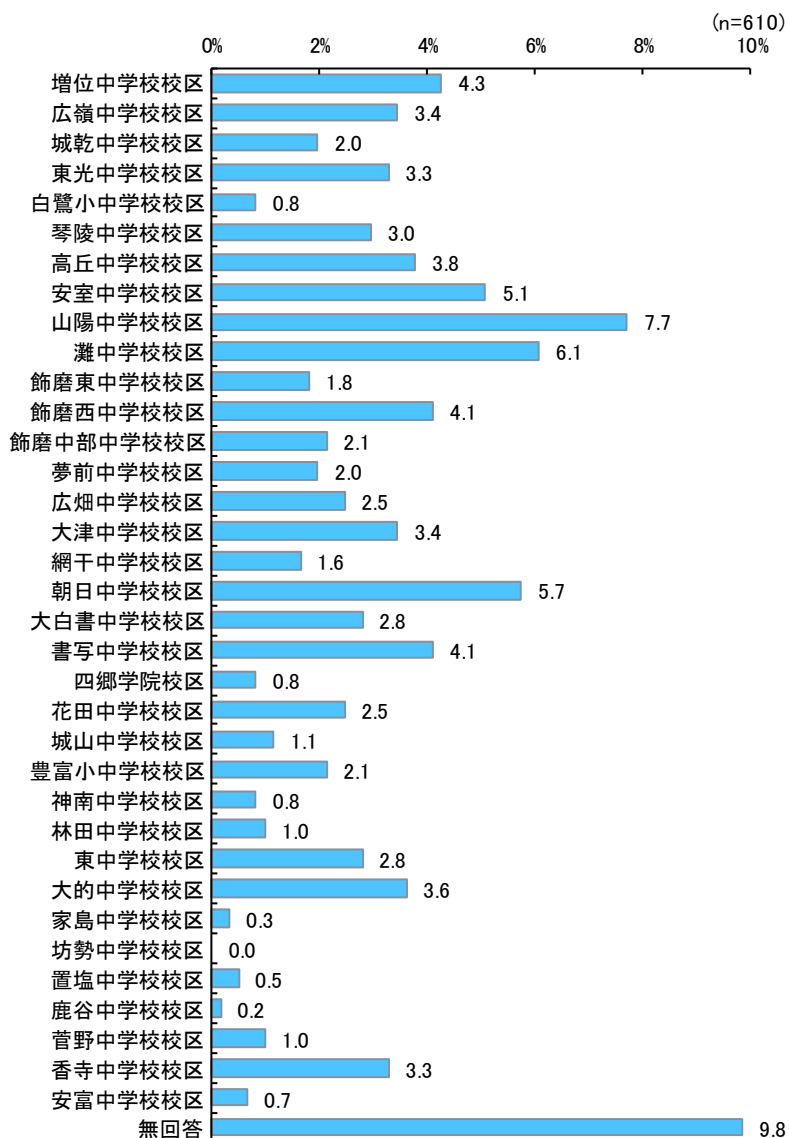
#### ① 年代

図表 1 年代



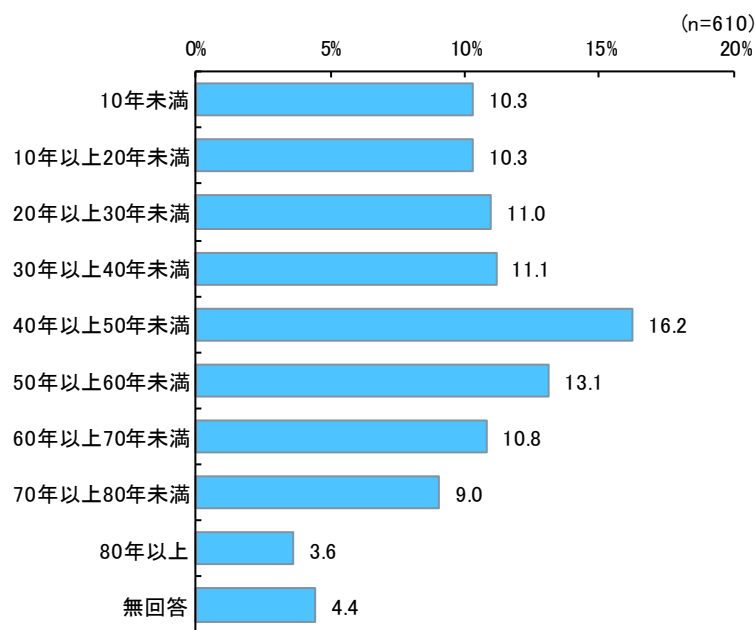
#### ② 中学校区別居住地

図表 2 中学校区別居住地



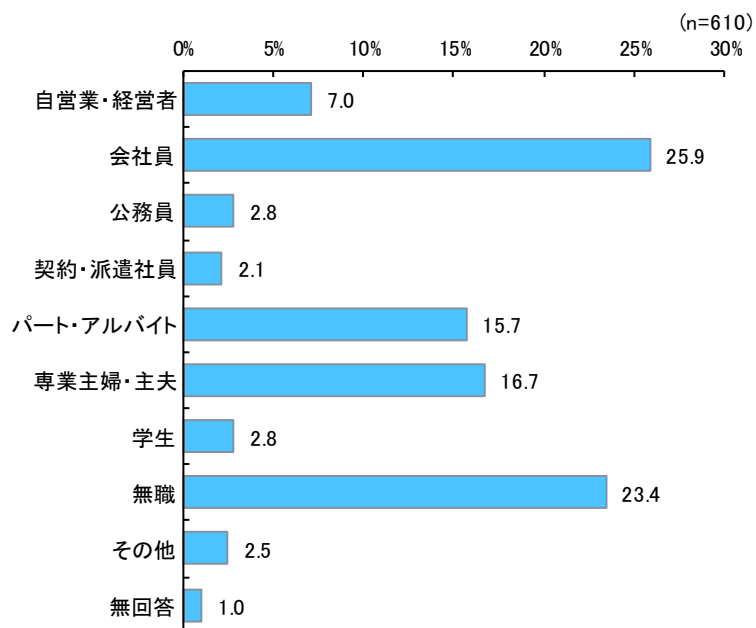
### ③ 姫路市での居住年数

図表 3 姫路市での居住年数



### ④ 職業

図表 4 職業

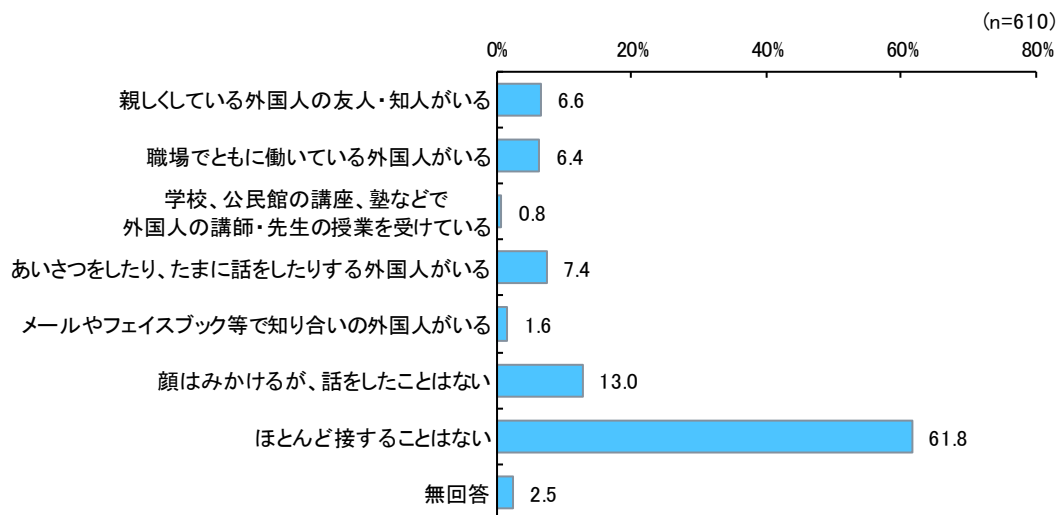


## ⑤ 外国人との関わり

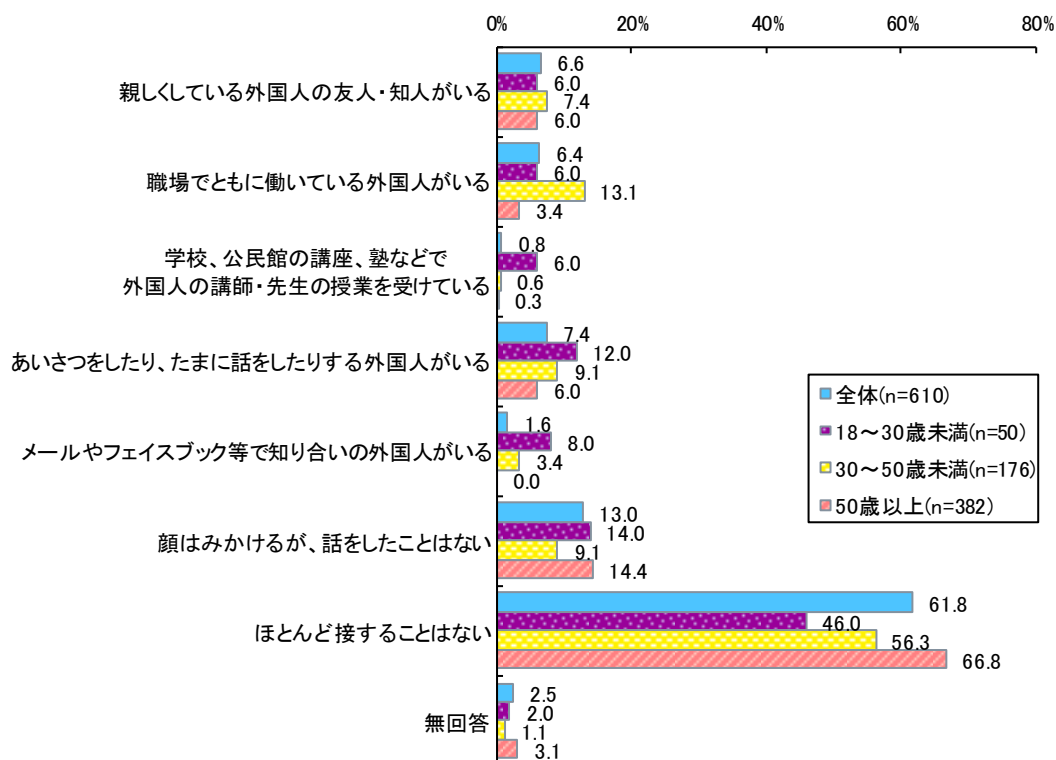
「ほとんど接することはない」という割合が最も高く、全体で61.8%となっている。

年代別にみると、18～30歳未満では、「学校、公民館の講座、塾などで外国人の講師・先生の授業を受けている」、「メールやフェイスブック等で知り合いの外国人がいる」の割合が他に比べて高い。30～50歳未満では、「職場でともに働いている外国人がいる」、50歳以上では、「ほとんど接することはない」の割合が他に比べて高い。

図表 5 外国人との関わり



図表 6 年代別にみた外国人との関わり



## ⑥ 国際交流の参加経験

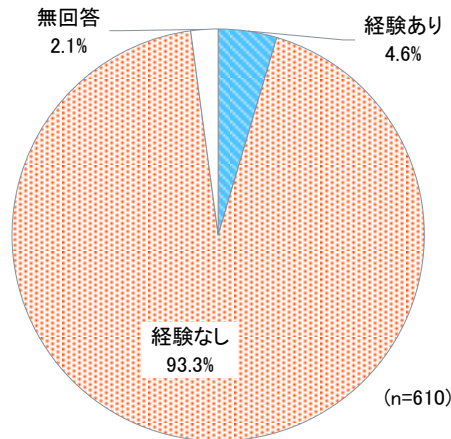
### i) 国際交流に関するボランティア活動の経験

国際交流に関するボランティア活動の「経験あり」の割合は4.6%となっている。

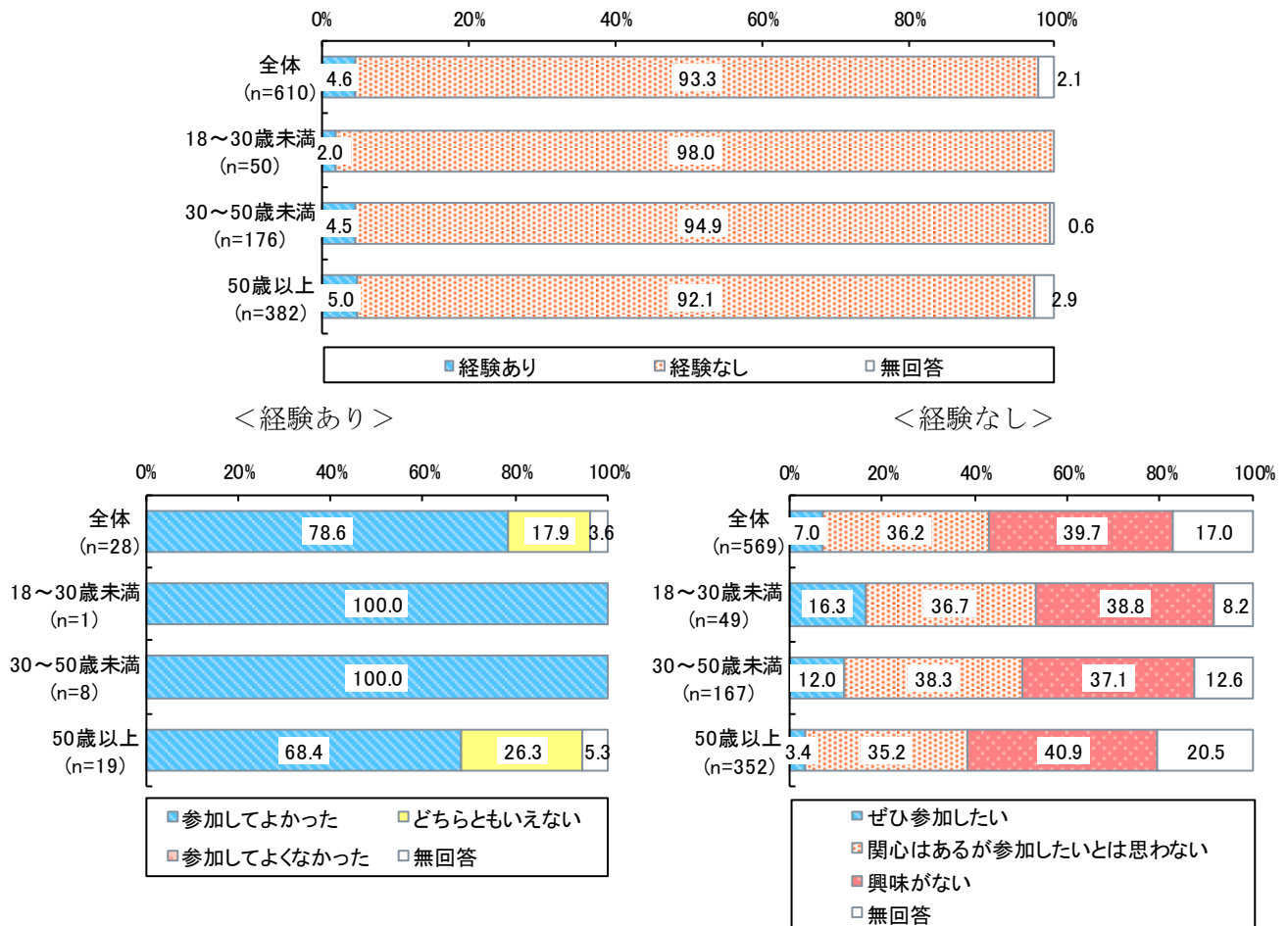
「経験あり」の人の評価は、「参加してよかった」割合が約8割となっている。

「経験なし」の人の今後の参加意向について、18～30歳未満で「ぜひ参加したい」割合が他に比べて高くなっている。

図表 7 国際交流に関するボランティア活動の経験



図表 8 年代別にみた国際交流に関するボランティア活動の経験



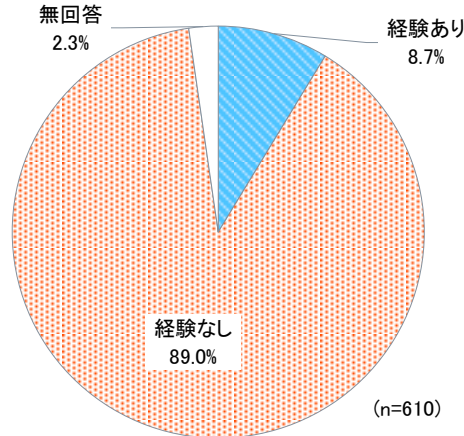
ii) 留学生や研修生などの外国人との交流イベントの経験

留学生や研修生などの外国人との交流イベントの「経験あり」の割合は8.7%となっている。

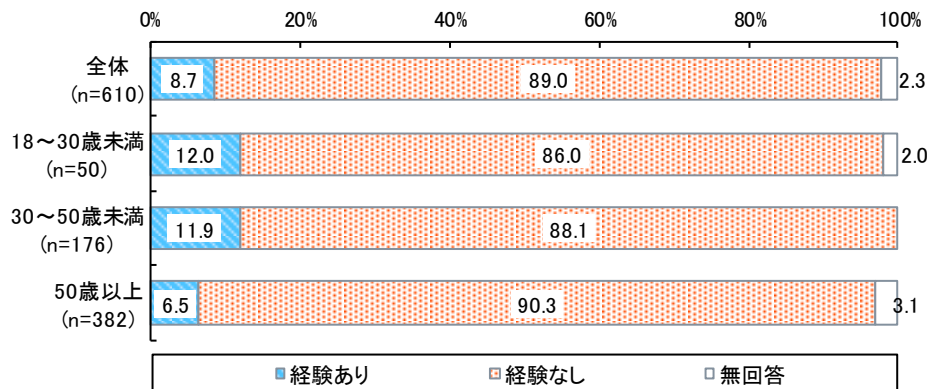
「経験あり」の人の評価は、「参加してよかった」割合が8割強となっている。

「経験なし」の人の今後の参加意向について、18～30歳未満、30～50歳未満で「ぜひ参加したい」割合が他に比べて高くなっている。

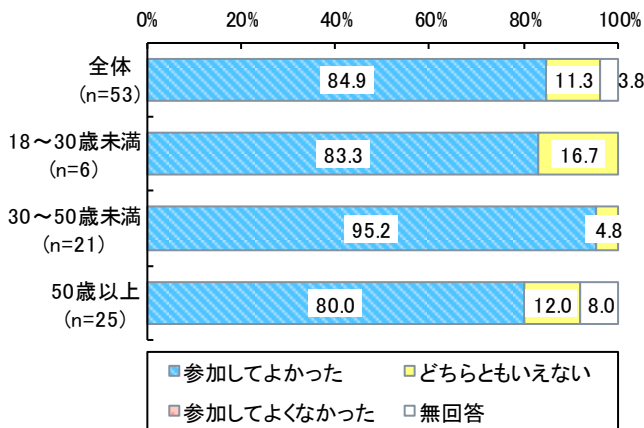
図表 9 留学生や研修生などの外国人との交流イベントの経験



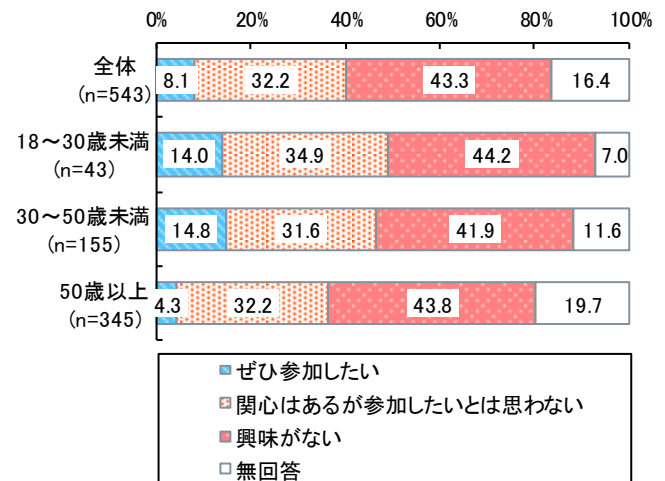
図表 10 年代別に見た留学生や研修生などの外国人との交流イベントの経験



<経験あり>



<経験なし>

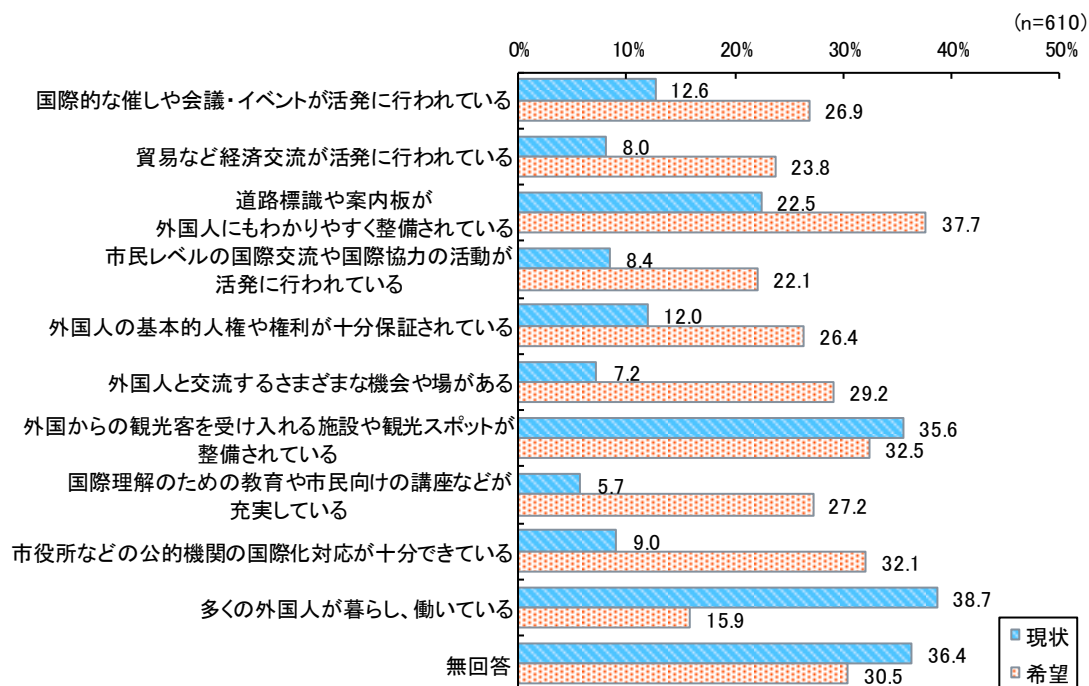




## ⑦ 姫路市の国際化推進に関する現状の認識・希望

国際化推進に関する希望と現状の差が大きいのは、「市役所などの公的機関の国際化対応が十分できている」（希望 32.1%、現状 9.0%）、「外国人と交流するさまざまな機会や場がある」（希望 29.2%、現状 7.2%）、「国際理解のための教育や市民向けの講座などが充実している」（希望 27.2%、現状 5.7%）となっている。

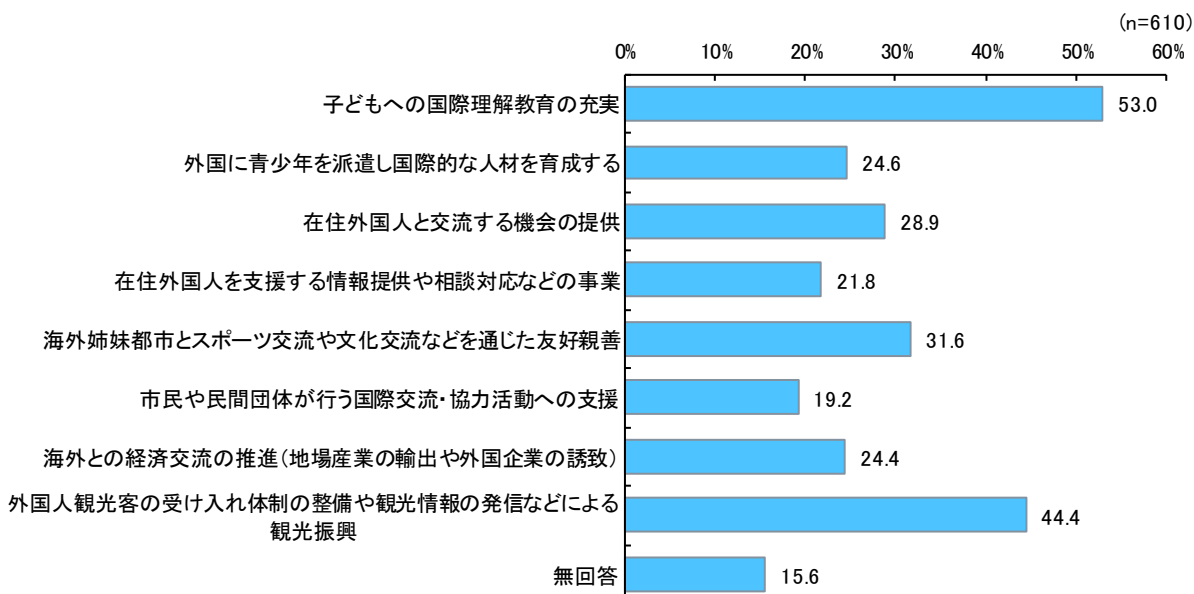
図表 1 1 姫路市の国際推進化に関する現状の認識・希望（複数回答）



## ⑧ 姫路市が国際化の推進を図るために必要な取り組み

「子どもへの国際理解教育の充実」の割合が 53.0%と最も高く、次いで「外国人観光客の受け入れ体制の整備や観光情報の発信などによる観光振興」の割合が 44.4%となっている。

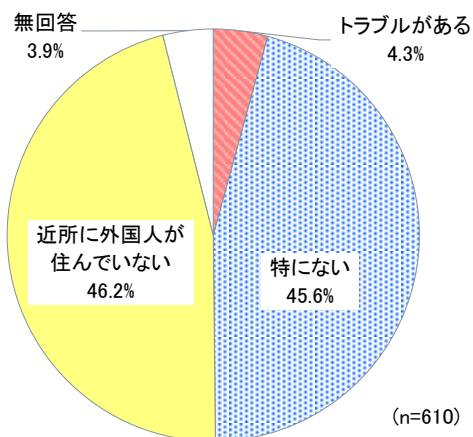
図表 1 2 姫路市が国際化の推進を図るために必要な取り組み（複数回答）



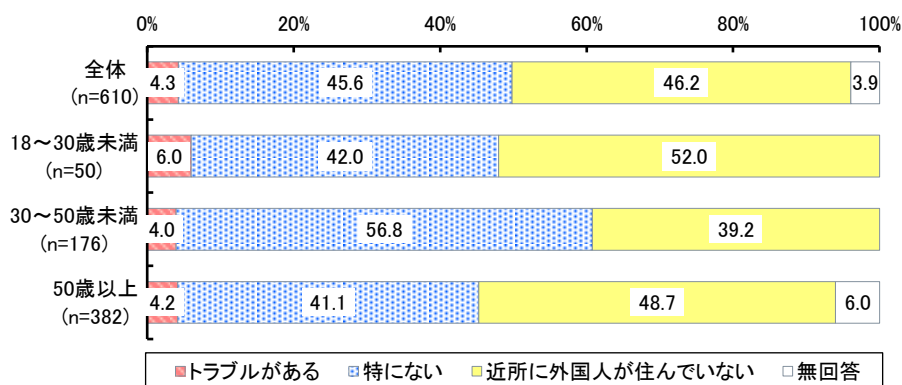
### ⑨ 住んでいる地域での外国人とのトラブル

「近所に外国人が住んでいない」の割合が最も高く、46.2%となっている。

図表 13 住んでいる地域での外国人とのトラブル



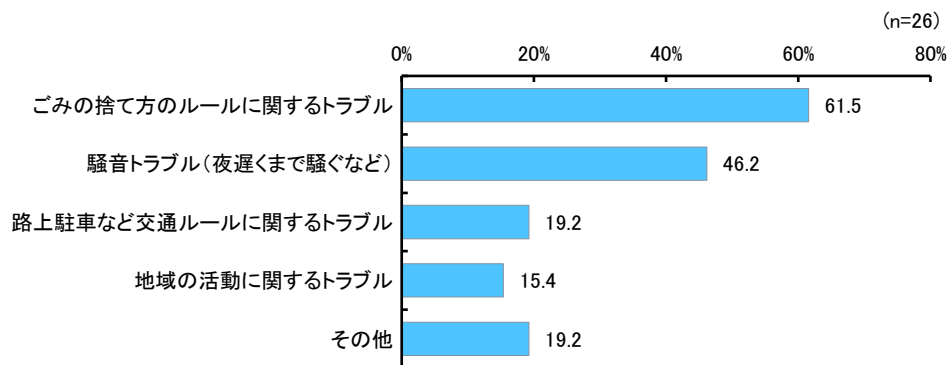
図表 14 年代別にみた住んでいる地域での外国人とのトラブル



### ⑩ 具体的なトラブルの内容

「ごみの捨て方のルールに関するトラブル」の割合が最も高く、61.5%となっている。

図表 15 具体的なトラブルの内容（複数回答）

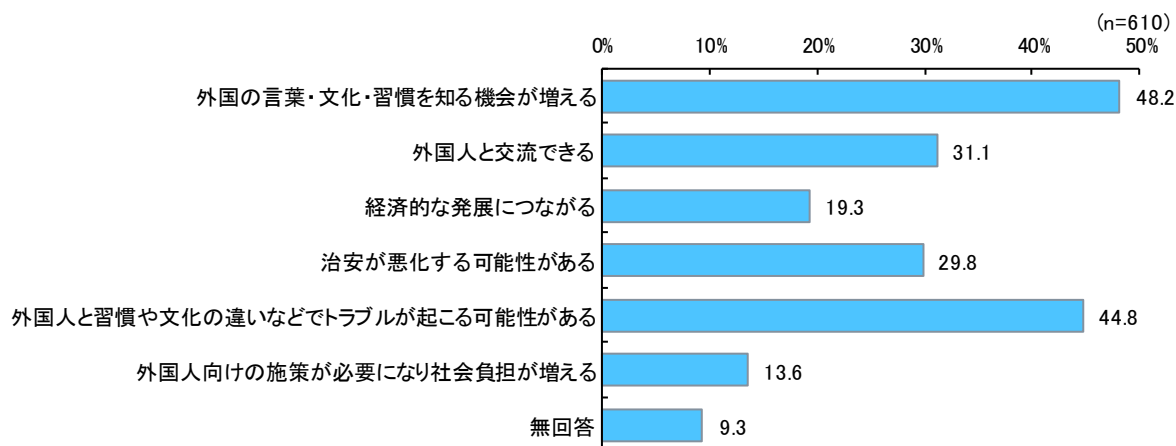


### ⑪ 地域に在住外国人が増えることに対する意見

「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える」が 48.2%と最も高く、次いで、「外国人と習慣や文化の違いなどでトラブルが起こる可能性がある」が 44.8%となっている。

地域で外国人のトラブルがあると回答した人は、他に比べると「外国人と習慣や文化の違いなどでトラブルが起こる可能性がある」、「治安が悪化する可能性がある」が高いと回答する割合が高い。

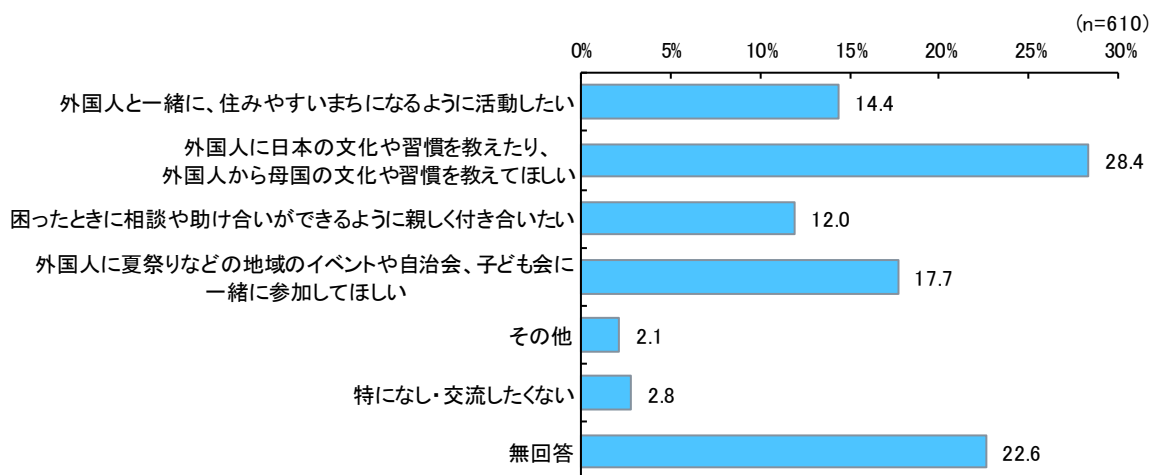
図表 16 地域に在住外国人が増えることに対する意見（複数回答）



### ⑫ 地域の在住外国人との交流に関する意見

「外国人に日本の文化や習慣を教えたり、外国人から母国の文化や習慣を教えてほしい」の割合が最も高く、28.4%となっている。

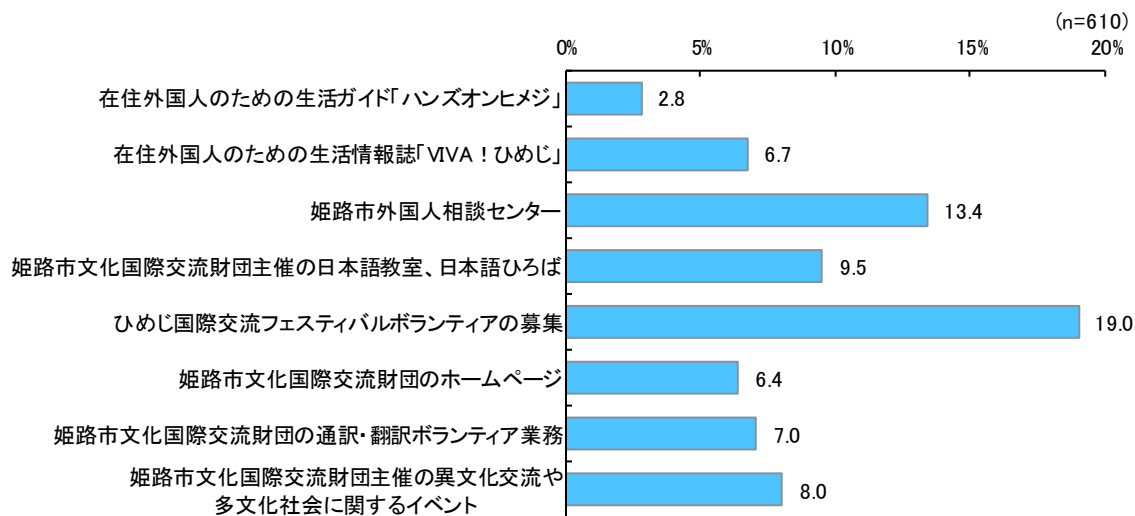
図表 17 地域の在住外国人との交流に関する意見



### ⑬ 市や財団が行う多文化共生に関する事業の認知度

「ひめじ国際交流フェスティバルボランティアの募集」の割合が最も高く、19.0%となっている。

図表 18 市や財団が行う多文化共生に関する事業の認知度（複数回答）



## ⑭ 自由記述

### <外国人との交流に関するもの>

- ・ 身近で気軽に国際交流できる場、イベントが増えるといい
- ・ お互いの文化や歴史・言葉などが学べる交流の場がたくさんあるといい
- ・ 外国人と知り合いになれる場所があるといい
- ・ 外国の人たちと交流ができるようなカフェやバーなどがあれば行きたい
- ・ 公民館で財団主催の外国の生活、習慣などを学ぶイベントがあればよい
- ・ 国際交流として市主催のスポーツイベント、音楽イベントがあるといい
- ・ 外国の人も参加できる踊りのイベントや、外国の人たちの屋台などがあるといい
- ・ 姉妹都市のことについて知ることができる機会、食のイベントがあればいい
- ・ 働いている外国人が仕事だけの毎日で終わっている。外国人を雇っている会社に財団が働きかけて、社会的に交流できる場を作ったらどうか

### <子どもへの国際理解教育の充実に関するもの>

- ・ 子どもたちに外国人と触れ合う機会を増やしてほしい
- ・ 幼稚園、保育園児頃から外国に触れて遊べる場があるとよい
- ・ 小さい頃から海外の方々と交流する機会を増やすと、次世代の育成につながる
- ・ 小・中学生が自由に生きた外国語が話せるよう在住外国人から直接学べる場を多く作ってほしい
- ・ 小学校の給食の時間に海外の生活の様子等を映像で流して、海外に興味を持たせてほしい
- ・ 小、中、高校生の交換留学などを増やしてほしい

### <多様性の尊重に関するもの>

- ・ アジア系の人々に対して差別意識を持っている人がいるのが現状ではないか
- ・ 外国人への偏見や差別をまだまだ見聞きする。身近な問題から取り組んだらどうか
- ・ 日々の生活の中でいかに共に生活し、活動し、交流できるかが大事。お互いを知るということで理解が生まれる
- ・ 様々な人や個性を認めることができる教育をしてほしい。多様性を当たり前を受け止める学校になってほしい
- ・ 姫路市には閉鎖的な雰囲気がある。外国人に姫路市に住んで良かったと思える所にしていきたい

### <外国人の支援に関するもの>

- ・ 外国人の権利も尊び、基本的な生活の保障も守っていくことも大事
- ・ 在日外国人への対策はまだ不足している。病院での対応など、日本語を話せない外国人に対してケアが必要
- ・ 外国にルーツをもつ就学前児童に対するオリエンテーションや、外国にルーツをもち、かつ特別な支援が必要な児童・生徒の保護者に対するカウンセリングやサポート制度を実施できるシステムを作ってほしい
- ・ 外国人労働者の受け入れの推進と、ケア、フォローに力を注いでもらいたい
- ・ 外国人労働者もこれからは戦力になるので、文化や言語の教育やお互いの交流や、トラブル解決のための窓口の創設が必要

- ・ 外国人を雇用する企業に対するサポートもしてほしい。働く場所をしっかりと整えることが、外国人に対する様々なトラブルを減らす近道だと思う
- ・ 外国人の生活に必要な支援をすると同時に、周りから不満がでないよう、平等に対応してほしい

#### <外国人とのトラブル対応に関するもの>

- ・ 外国人とのトラブルについて解決策を公表してほしい
- ・ ゴミ等の地区での決めごと・ルールを守ってほしい
- ・ トラブル等が起こった場合、すぐ対応できる機関が必要。地域で問題を抱え悩んでいる
- ・ 母国の習慣を押し通す迷惑行為をやめてほしい。日本のマナー・ルールに合わせることも大切だと知ってほしい
- ・ 多文化共生や国際交流推進に伴うリスクや住民の理解も考慮していただきたい

#### <外国人のルール・マナーに関するもの>

- ・ 文化の違いを感じることもあるので、永住になっていく方々には生活の仕方を教えてほしい
- ・ 言葉の理解、文化の違いで困まったことがあるので、日本人も外国の文化を理解すると同時に、外国の方も文化の違いについて学んでほしい
- ・ 買い物の際に文化の違いを感じたので、一般的なルールについて掲示した方がよい
- ・ 免許取得されている外国人の方へ交通ルールなどの説明が必要

#### <住みやすいまちづくりに関するもの>

- ・ 国際交流に気を留めたことがなかったが、もっと外国人が移住してきやすい姫路になるとよい
- ・ 保育園で親が外国人の方がいるが、生活の違いや言葉で苦労しているので、その方たちが暮らしやすいように努力してほしい
- ・ 外国人も日本人も関係なく住みやすい地域になればよい

#### <情報発信の充実に関するもの>

- ・ 国際交流推進活動に関する情報、イベント情報を今まで以上に提供してほしい
- ・ COVID-19 で実際の交流が難しい中、WEB を活用した情報発信や文化相互理解を促す仕組みを作ってほしい
- ・ 姫路市における外国人に関する統計データがわかると、今よりも親近感が湧く
- ・ 地域の自治会の回覧板で、外国人についての知識や支援などについての講習会の案内を回覧してほしい

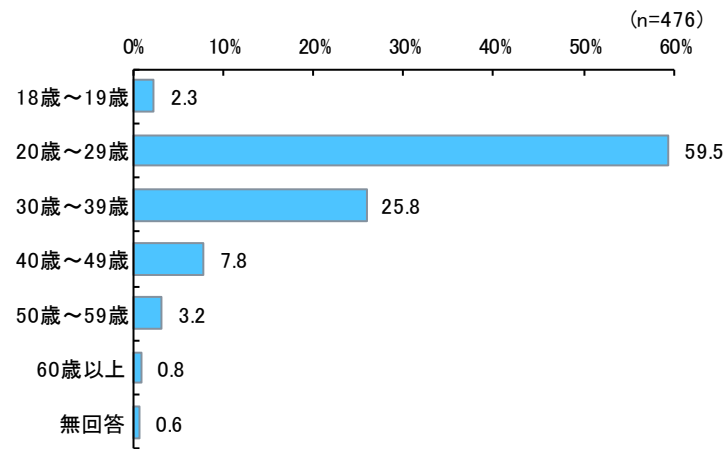
#### <市役所の国際化推進事業に関するもの>

- ・ 職員への国際交流先進都市への派遣・研修を通じて、市民への周知反映をしていただきたい
- ・ 自動翻訳機を活用したらどうか
- ・ 今まで姫路市の国際化の取組みを知らなかったなので、今後は参加していきたい

## (2) 外国人への調査結果

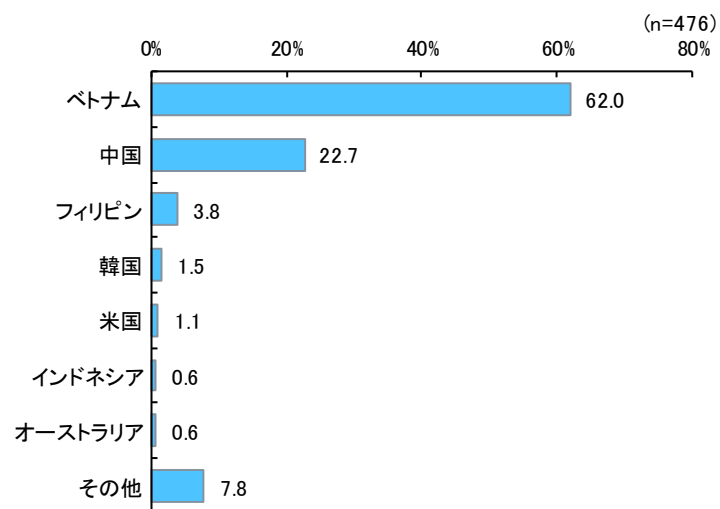
### ① 年代

図表 19 年代



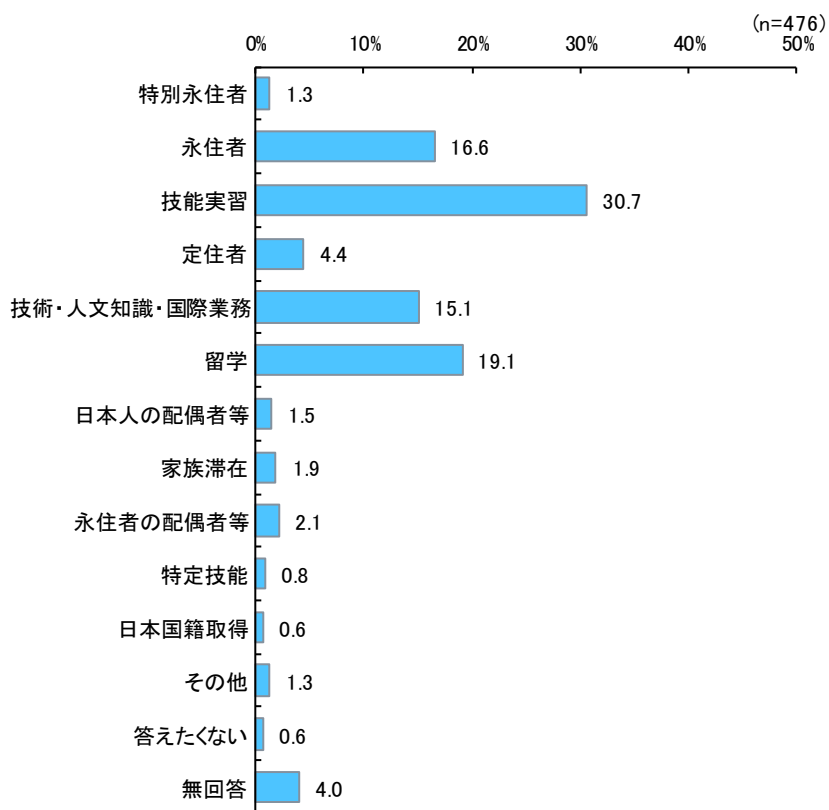
### ② 国籍

図表 20 国籍

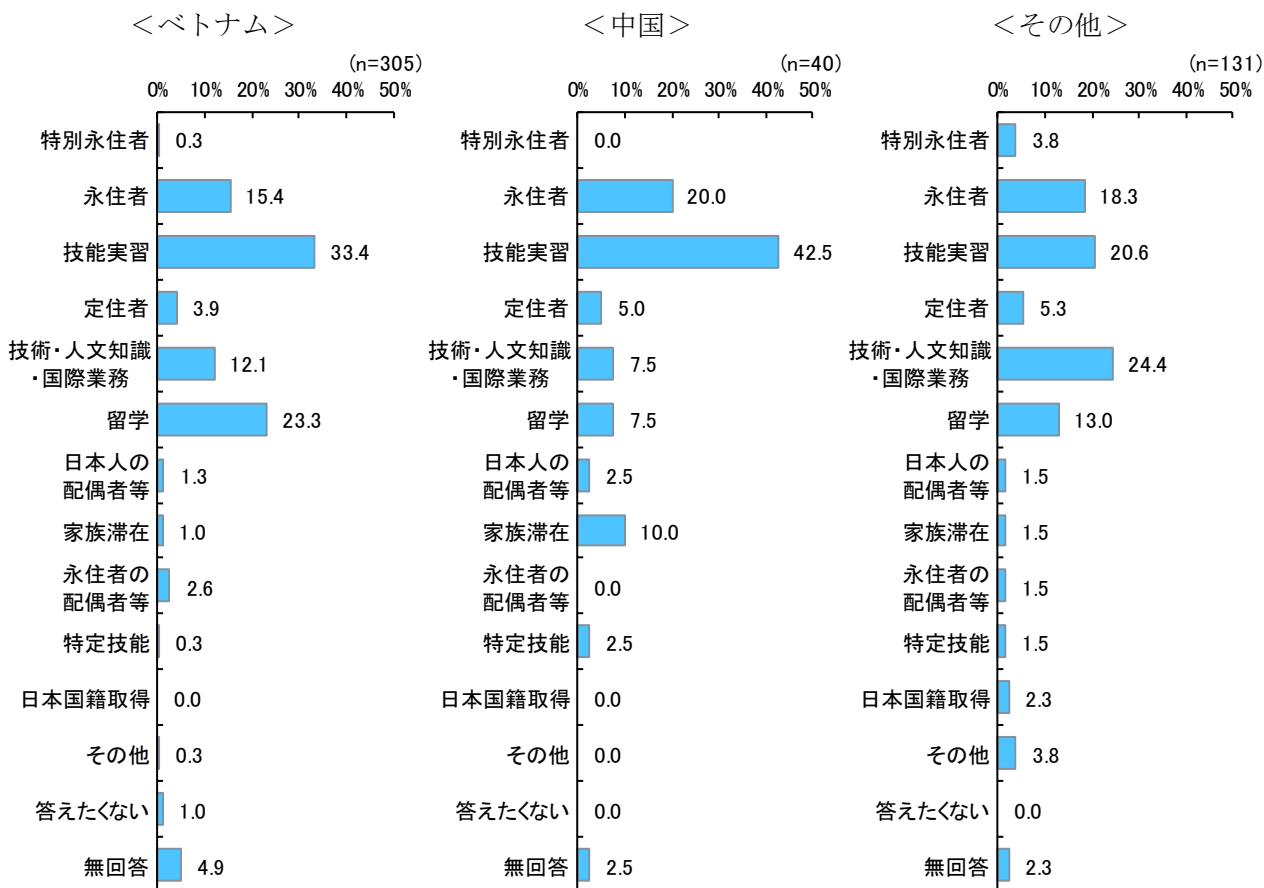


③ 在留資格

図表 2 1 在留資格



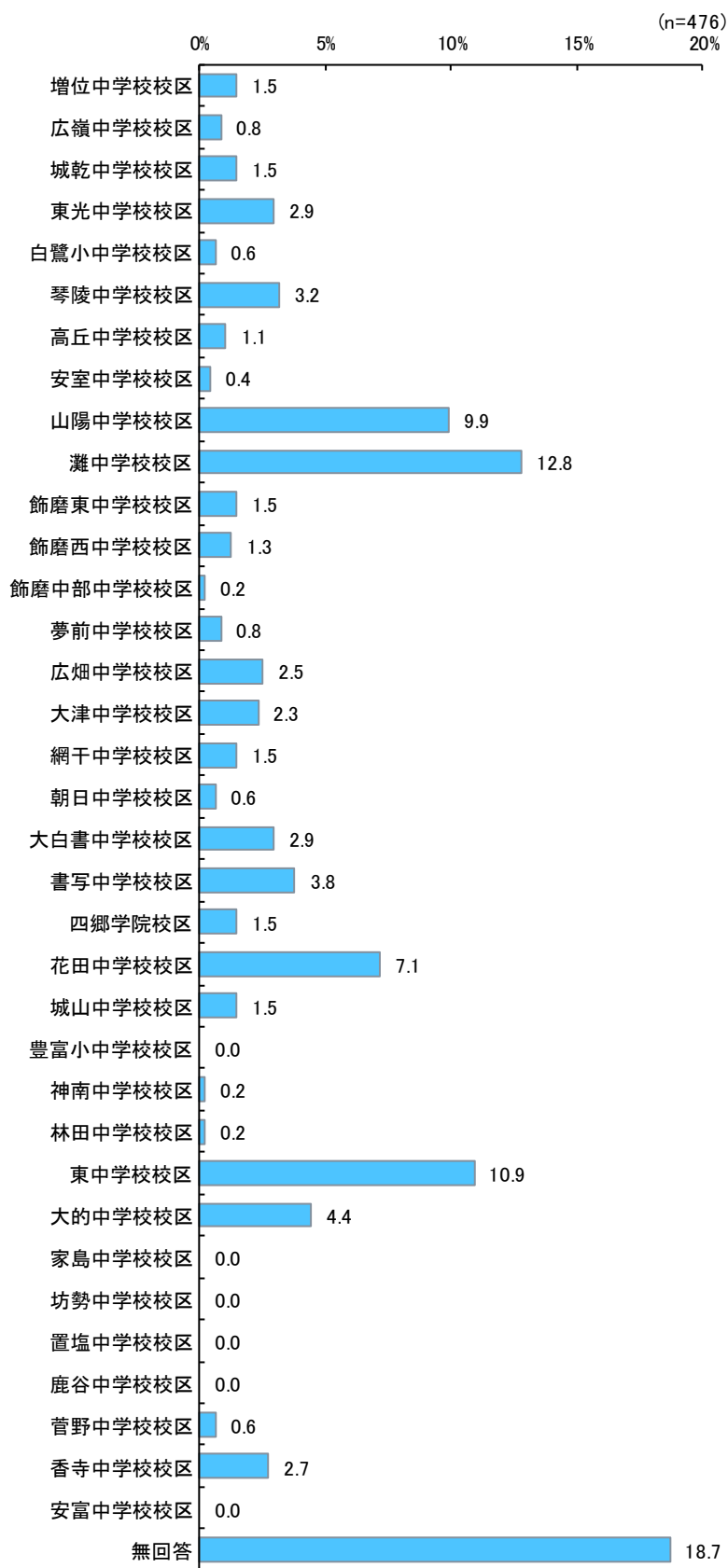
図表 2 2 国籍別にみた在留資格





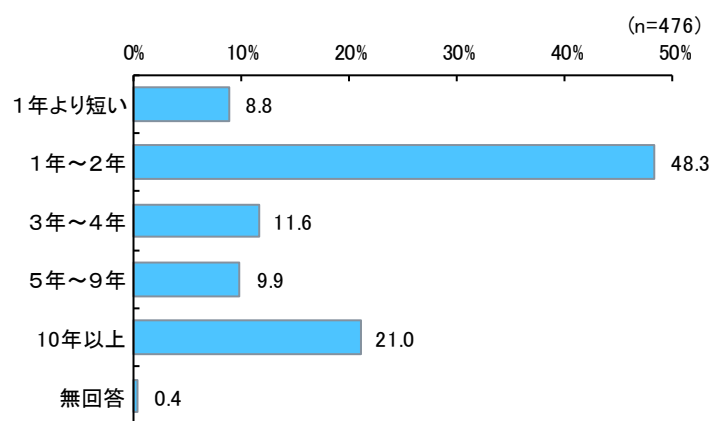
④ 中学校區別居住地

図表 2 3 中学校區別居住地



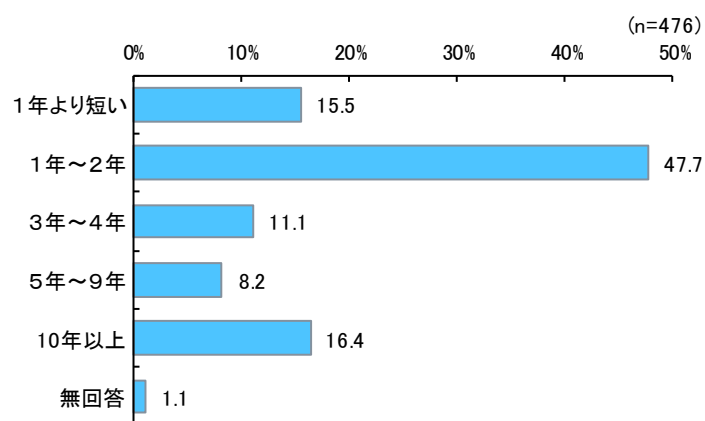
⑤ 日本での居住年数

図表 2 4 日本での居住年数



⑥ 姫路市での居住年数

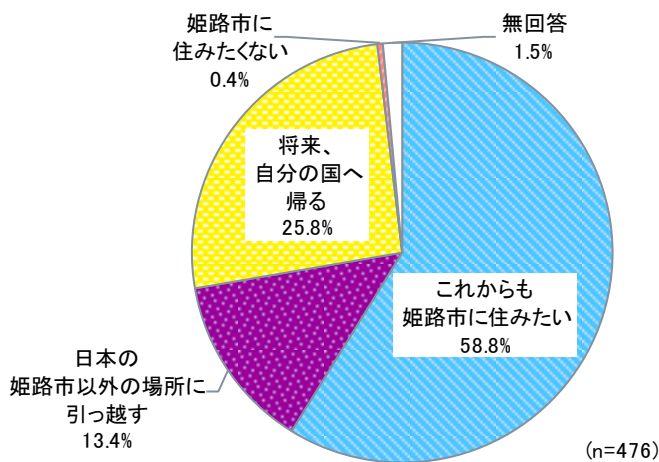
図表 2 5 姫路市での居住年数



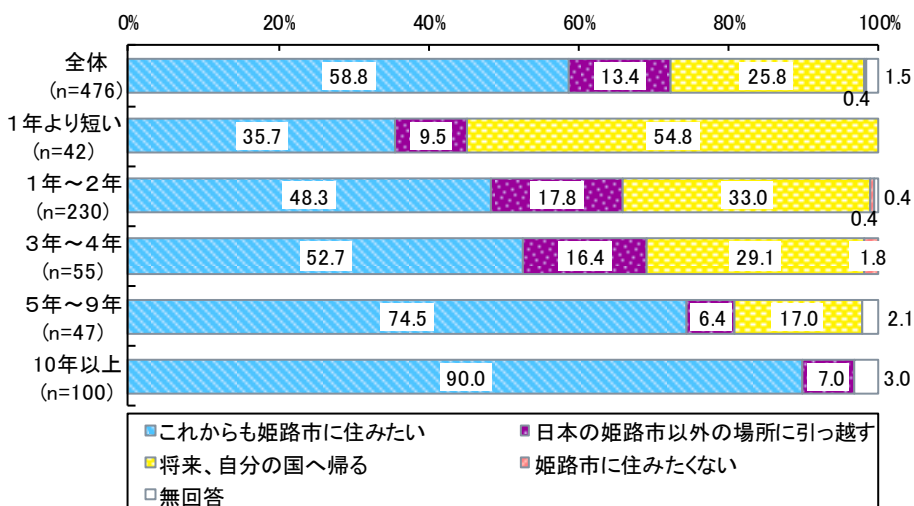
## ⑦ 今後の姫路市での居留意向

「これからも姫路市に住みたい」の割合が最も高く、58.8%となっている。  
 日本での居住年数別では、居住年数が高い人ほど「これからも姫路市に住みたい」の割合が高い。  
 在留資格別では、留学生は他に比べて「日本の姫路市以外の場所に引っ越す」割合が高い。

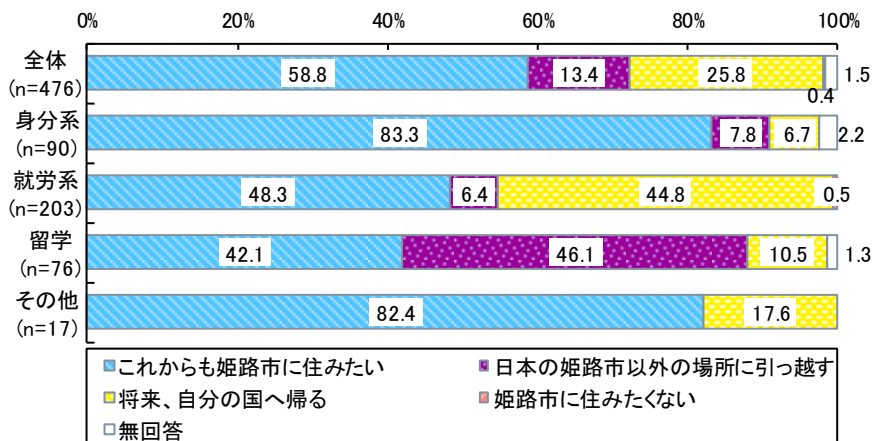
図表 26 今後の姫路市での居留意向



図表 27 日本での居住年数別にみた今後の姫路市での居留意向



図表 28 在留資格別にみた今後の姫路市での居留意向



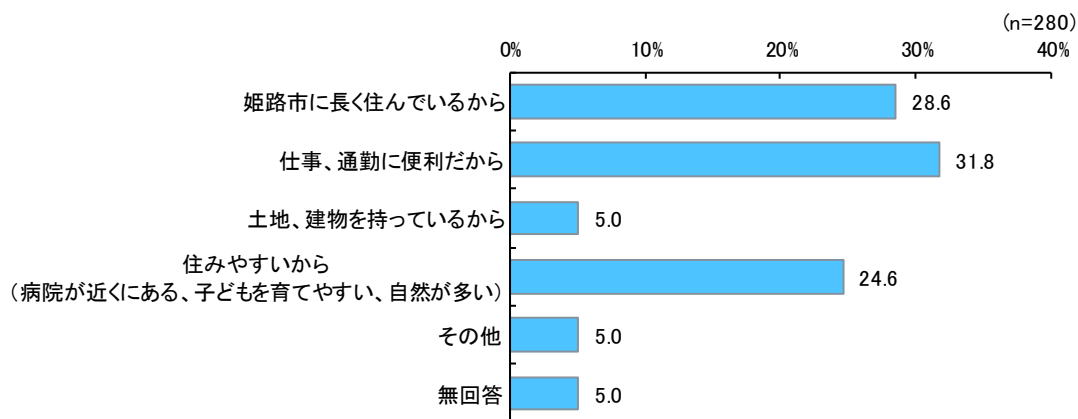
※身分系：特別永住者、永住者、定住者、日本人の配偶者、永住者の配偶者、帰化者  
 就労系：技能実習、技術・人文知識・国際業務、特定技能  
 留学：留学  
 その他：家族滞在、その他、答えたくない

### ⑧ 姫路市に住みたい理由

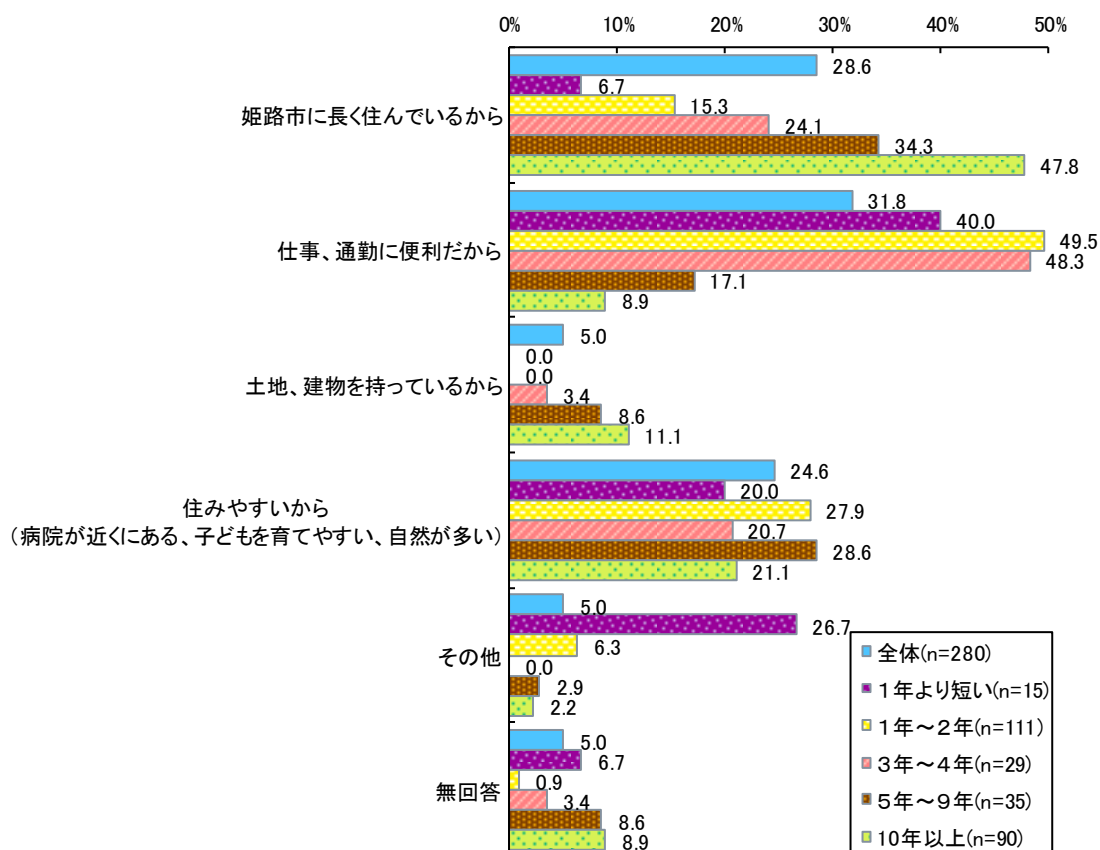
「仕事、通勤に便利だから」の割合が31.8%と最も高く、次いで、「姫路市に長く住んでいるから」が28.6%となっている。

日本での居住年数別にみると、1年～4年の人は「仕事、通勤に便利だから」の割合が他に比べて高い。

図表 29 姫路市に住みたい理由



図表 30 日本での居住年数別にみた姫路市に住みたい理由

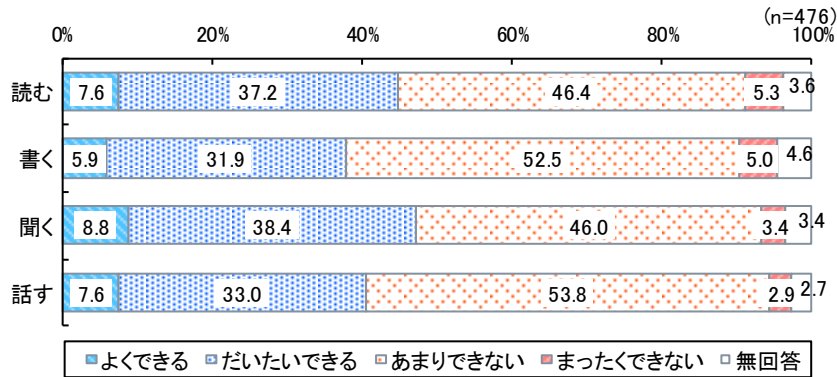


### ⑨ 日本語レベル

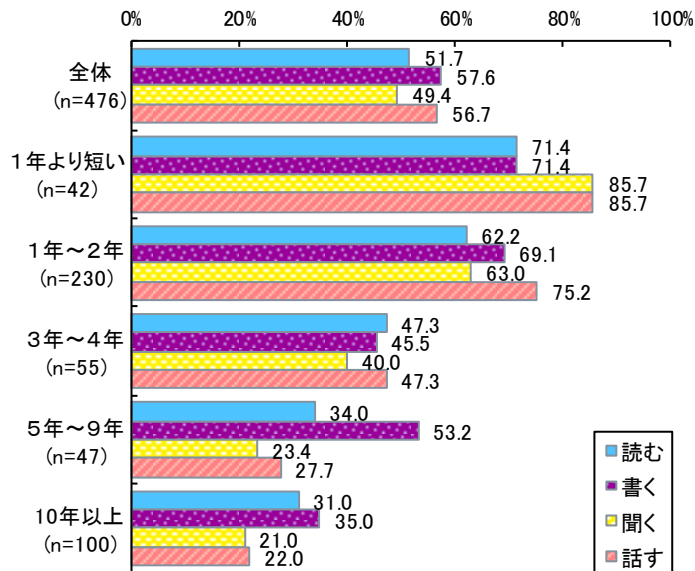
日本での居住年数が2年以下の人は、「読む・書く・聞く・話す」いずれにおいても6割以上が「できない（「あまりできない」+「まったくできない）」となっている。一方で、5年以上になると、「読む・聞く」が「できない」人は2～3割となり、日本語ができる人も増加する。

在留資格別にみると、就労系で特に日本語ができない割合が高い。

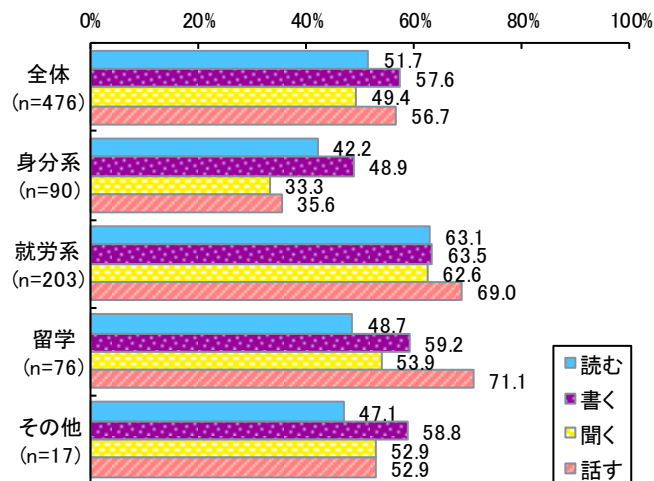
図表 3 1 日本語レベル



図表 3 2 日本での居住年数別にみた日本語ができない人の割合



図表 3 3 在留資格別にみた日本語ができない人の割合

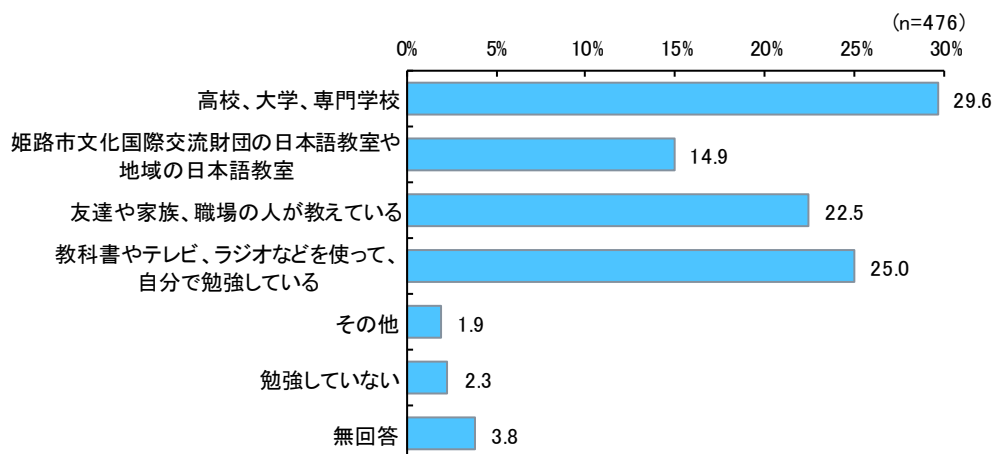


## ⑩ 日本語勉強方法

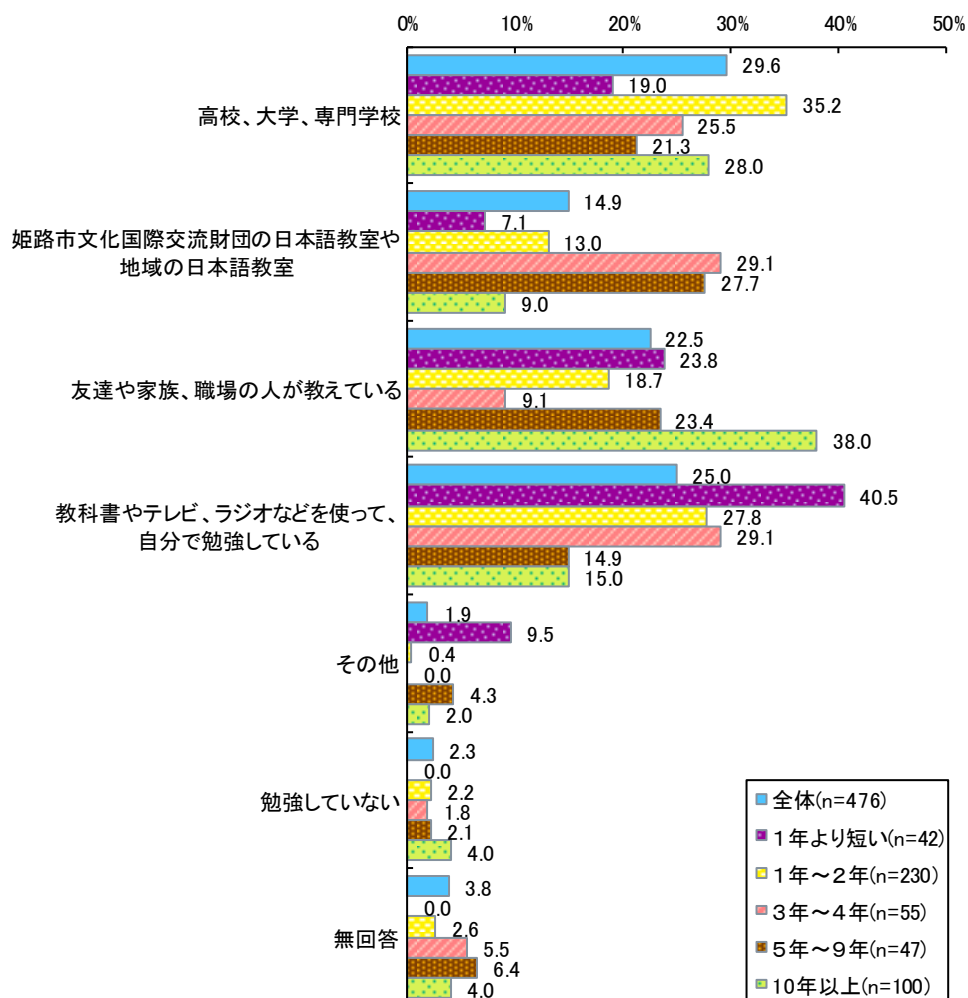
「高校、大学、専門学校」の割合が最も高く、29.6%となっている。

日本での居住年数が1年より短い人は「教科書やテレビ、ラジオなどを使って、自分で勉強している」、3年～9年の人には「姫路市文化国際交流財団の日本語教室や地域の日本語教室」、10年以上の人は「友達や家族、職場の人が教えている」の割合が他に比べて高い。

図表 34 日本語勉強方法



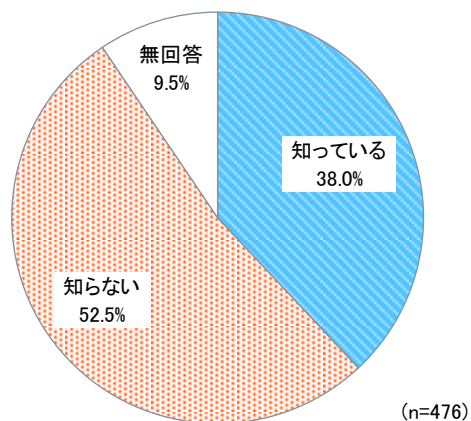
図表 35 日本での居住年数別にみた日本語勉強方法



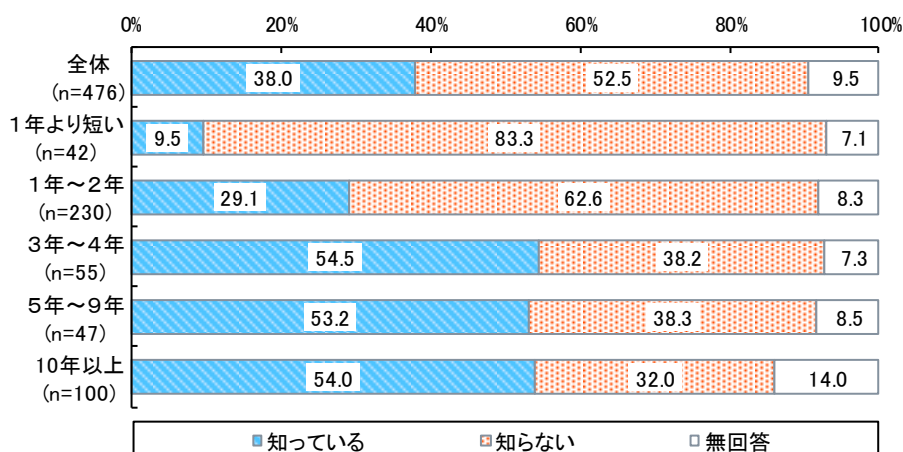
① 姫路市文化国際交流財団の日本語教室の認知度

姫路市文化国際交流財団の日本語教室について 52.5%が「知らない」と回答している。特に、日本での居住年数が2年以下の人は他に比べて「知らない」割合が高い。

図表 36 姫路市文化国際交流財団の日本語教室の認知度



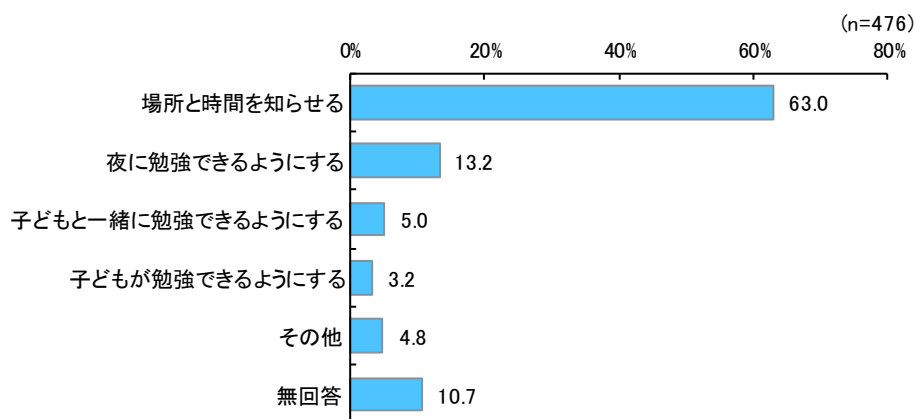
図表 37 日本での居住年数別にみた姫路市文化国際交流財団の日本語教室の認知度



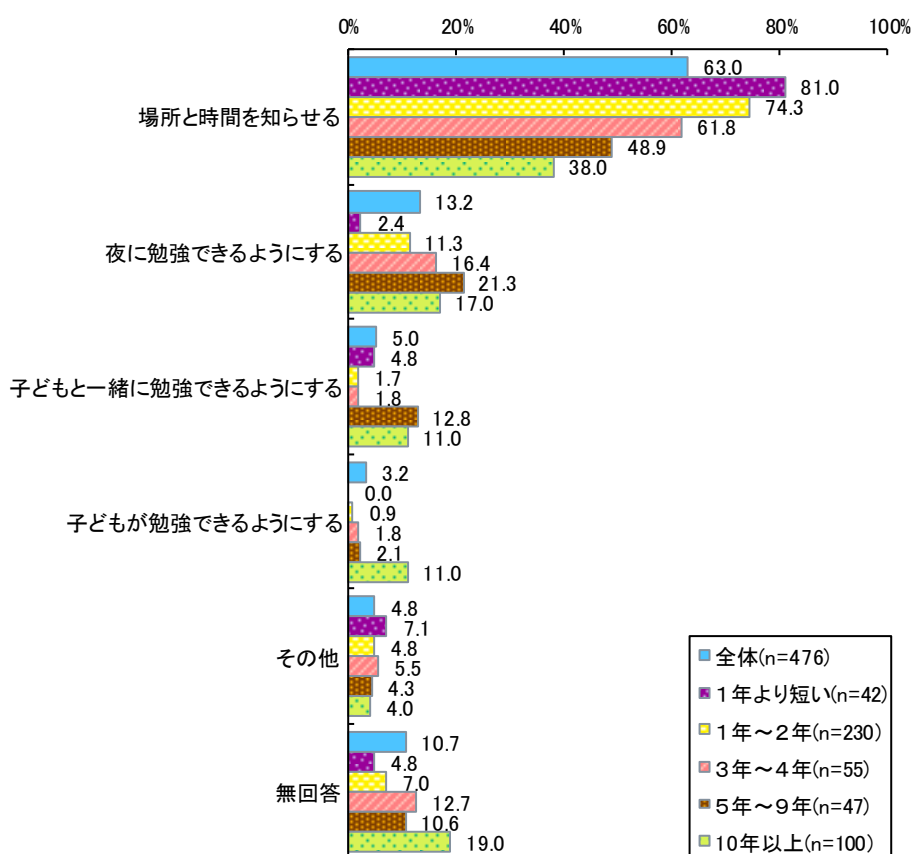
⑫ 財団の日本語教室周知のために必要なこと

「場所と時間を知らせる」の割合が最も高く、63.0%となっている。特に、日本での居住年数が2年以下の人は他に比べて「場所と時間を知らせる」の割合が高い。

図表 38 財団の日本語教育周知のために必要なこと



図表 39 日本での居住年数別にみた財団の日本語教育周知のために必要なこと

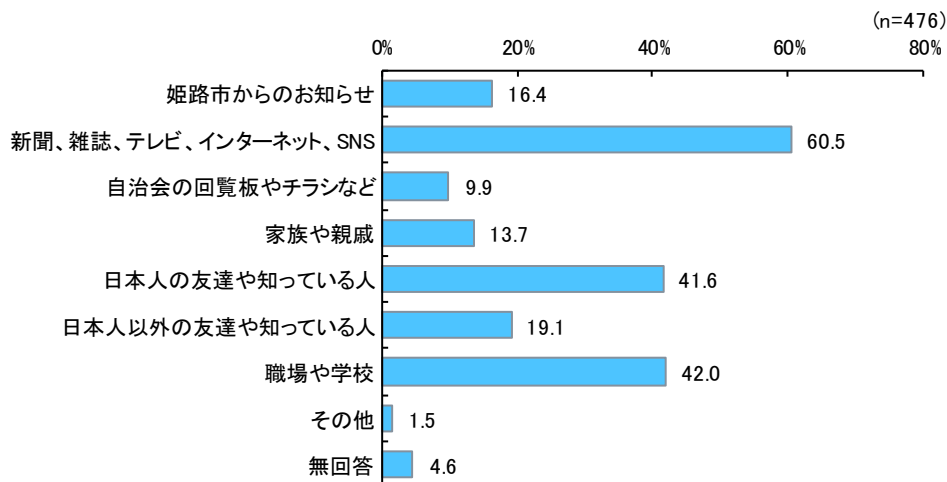




### ⑬ 生活情報の入手方法

「新聞、雑誌、テレビ、インターネット、SNS」の割合が最も高く、60.5%となっている。

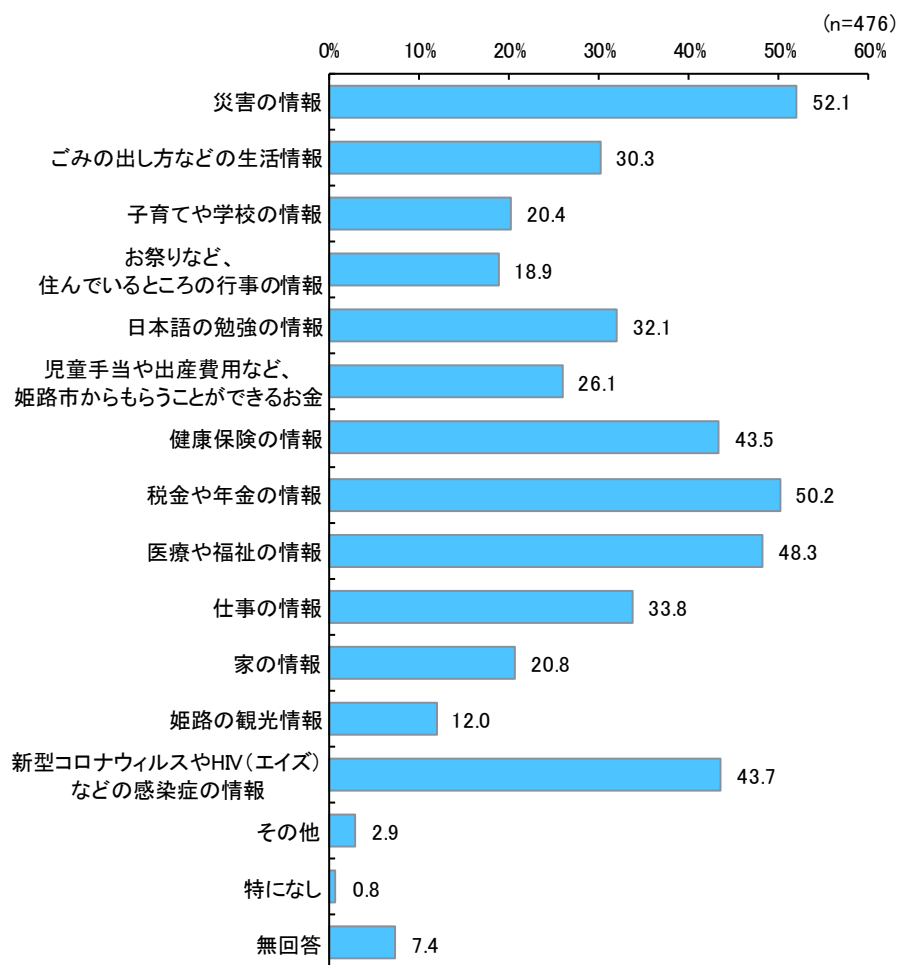
図表 40 生活情報の入手方法（複数回答）



### ⑭ 母国語で必要とする情報

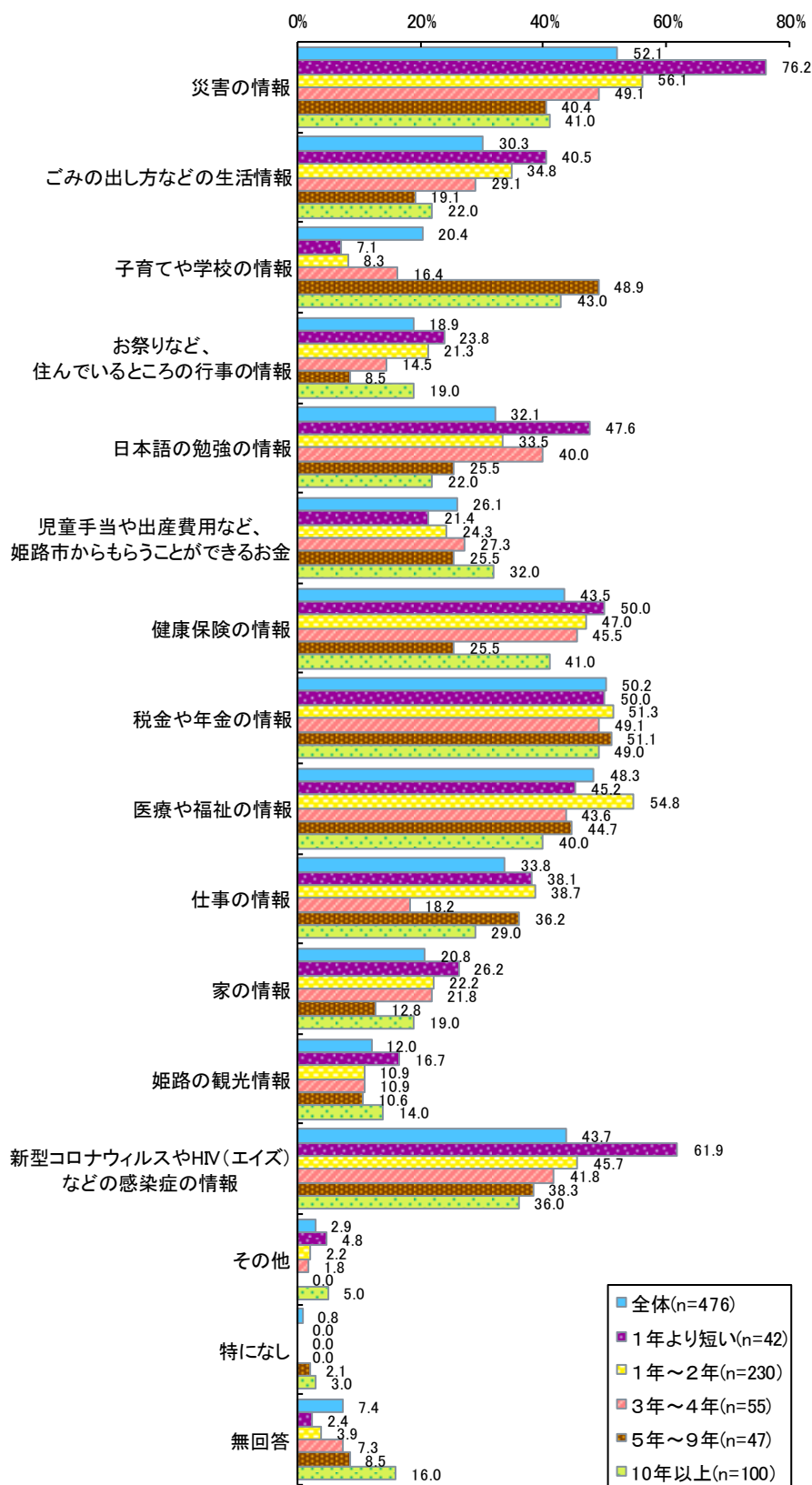
「災害の情報」の割合が52.1%と最も高く、次いで「税金や年金の情報」の割合が50.2%となっている。

図表 41 母国語で必要とする情報（複数回答）



日本での居住年数が1年より短い人は、「災害の情報」、「ごみの出し方などの生活情報」、「日本語の勉強の情報」、「新型コロナウイルスやHIV（エイズ）などの感染症の情報」を求める割合が他よりも高い。また、5年以上の人は、「子育てや学校の情報」を求める割合が高い。

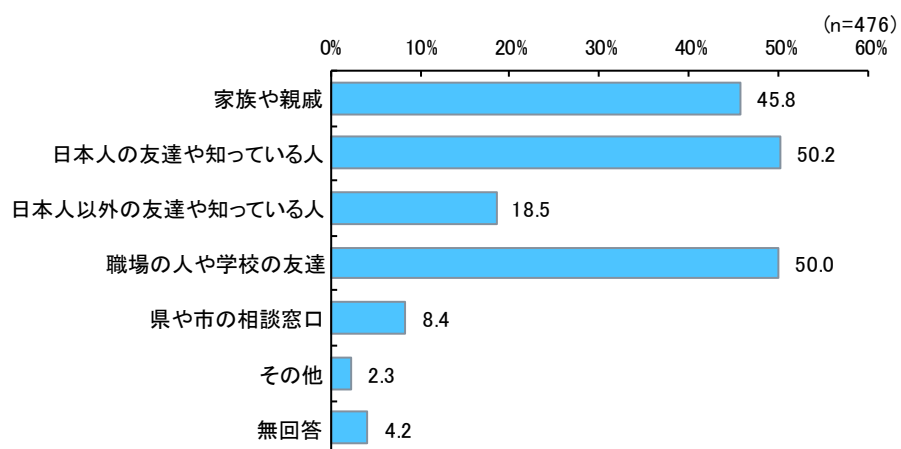
図表 4 2 日本での居住年数別にみた母国語で必要とする情報（複数回答）



### ⑮ 困ったときの相談相手

「日本人の友達や知っている人」の割合が 50.2%と最も高く、次いで「職場の人や学校の友達」の割合が 50.0%となっている。

図表 4 3 困ったときの相談相手（複数回答）

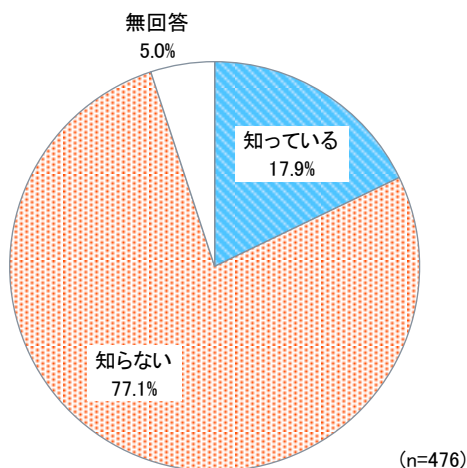


⑩ 姫路市外国人相談センターの認知度

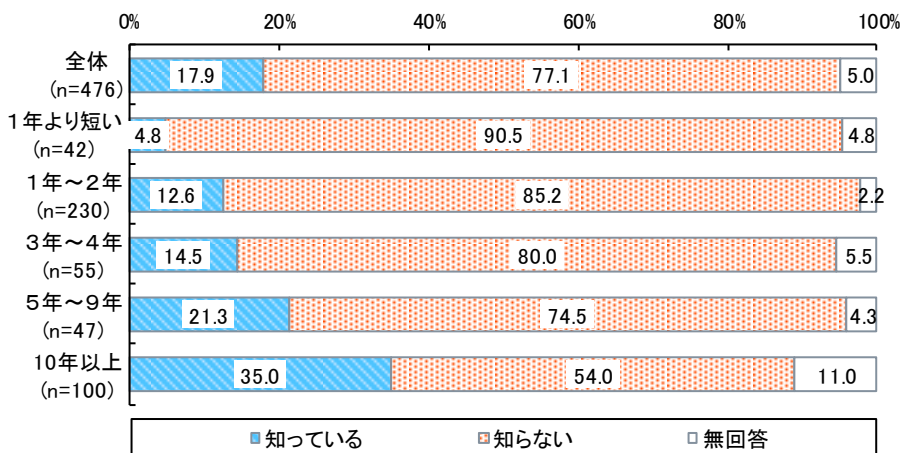
姫路市外国人相談センターについて77.1%が「知らない」と回答している。特に、日本での居住年数が2年以下の人は他に比べて「知らない」割合が高い。

在留資格別にみると、身分系では「知っている」割合が高く、就労系、留学で「知らない」割合が高い。

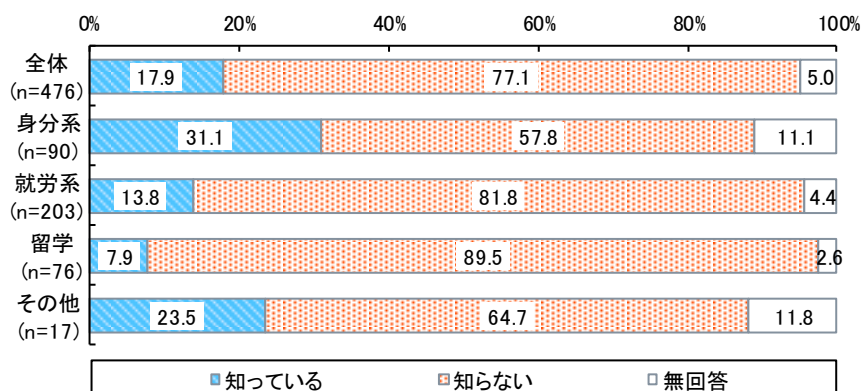
図表 4 4 姫路市外国人相談センターの認知度



図表 4 5 日本での居住年数別にみた姫路市外国人相談センターの認知度



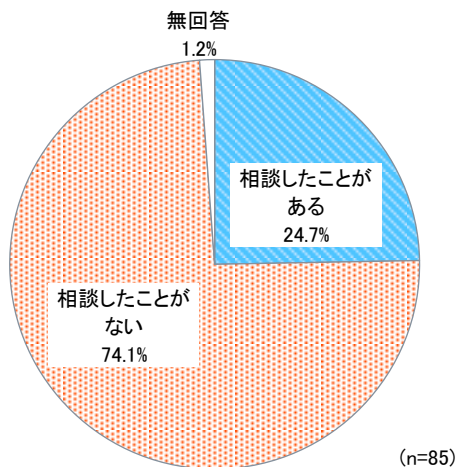
図表 4 6 在留資格別にみた姫路市外国人相談センターの認知度



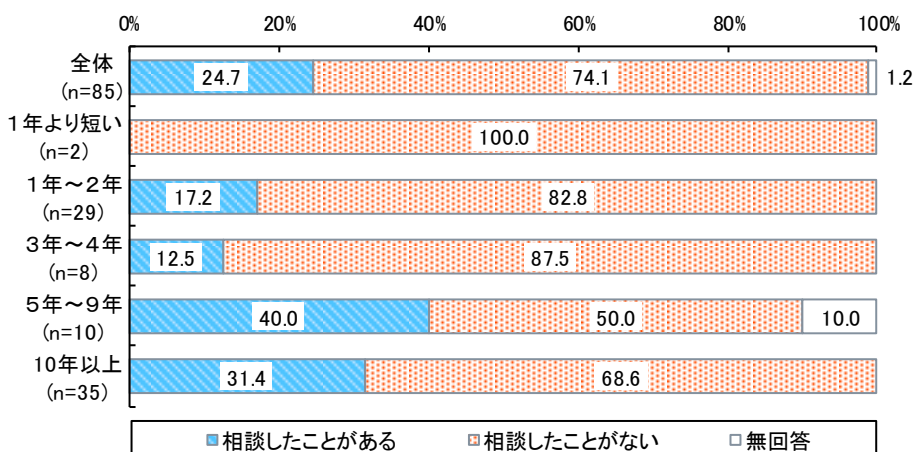
⑰ 外国人相談センターの利用有無

外国人相談センターについて74.1%が「利用したことがない」と回答している。

図表 4 7 外国人相談センターの利用有無



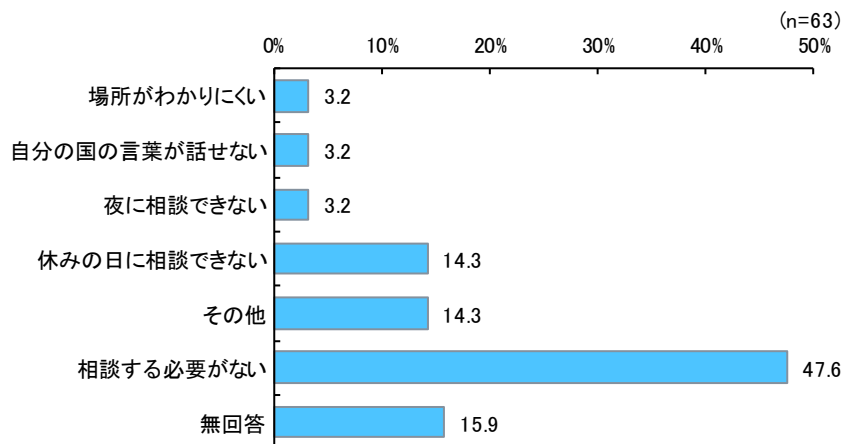
図表 4 8 日本での居住年数別にみた外国人相談センターの利用有無



⑱ 外国人相談センターを利用したことがない理由

「相談する必要がない」の割合が最も高く、47.6%となっている。

図表 4 9 外国人相談センターを利用したことがない理由（複数回答）

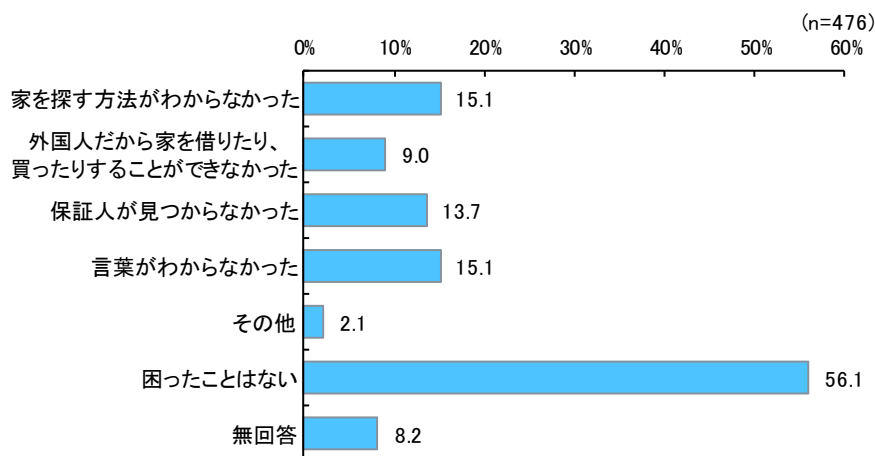


### ⑱ 住むところについて困った経験

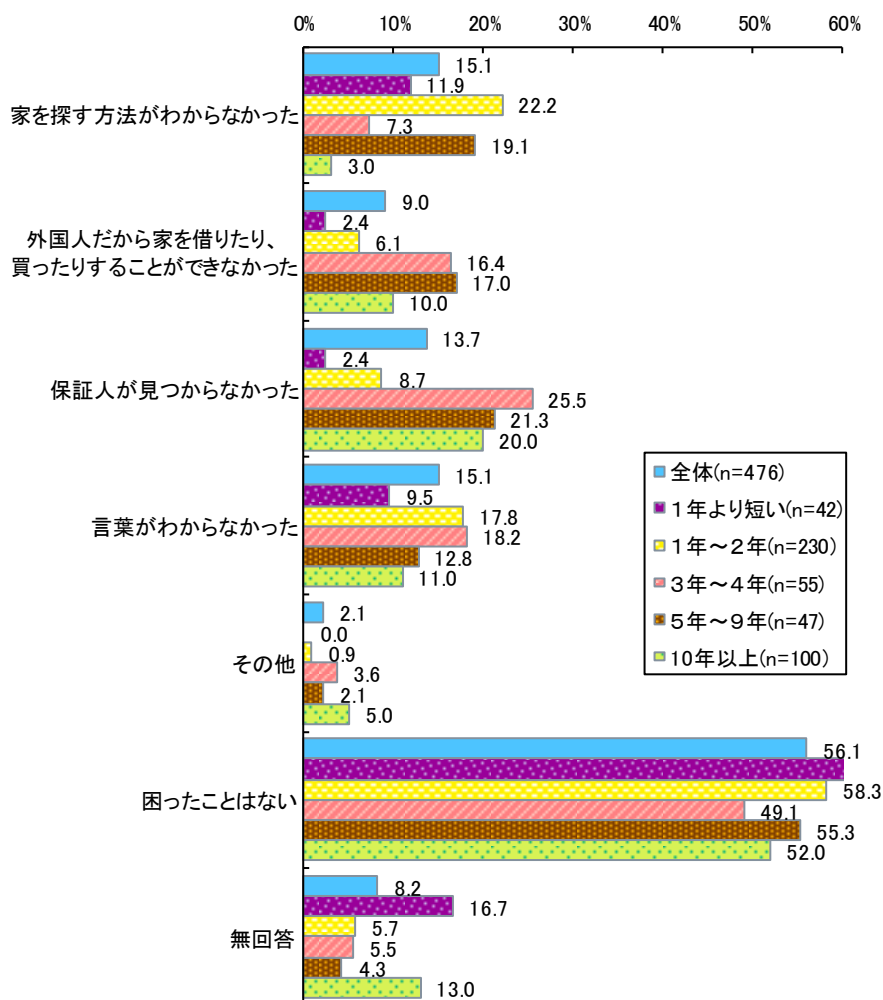
「困ったことはない」の割合が最も高く、56.1%となっている。

日本での居住年数別にみると、1年より短い人は「困ったことはない」、1年～2年の人は「家を探す方法がわからなかった」、3年～4年の人は「保証人が見つからなかった」の割合が他と比べて高い。

図表 50 住むところについて困った経験（複数回答）



図表 51 日本での居住年数別にみた住むところについて困った経験（複数回答）

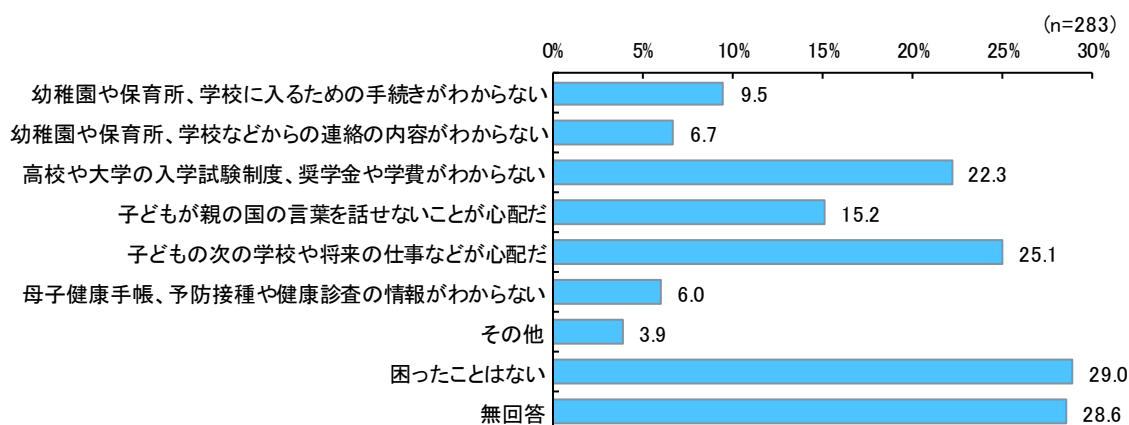


## ⑳ 子育てや学校で困っていること

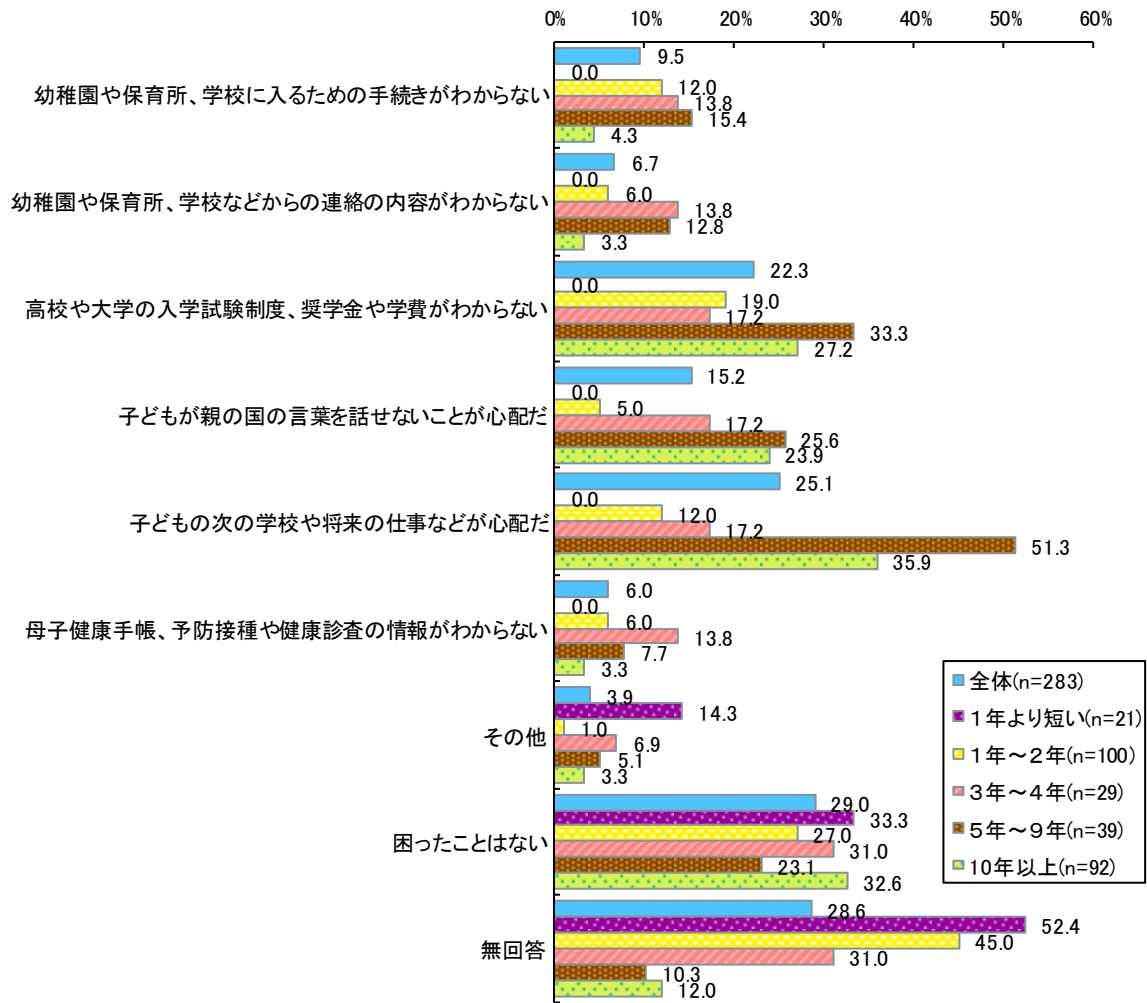
「困ったことはない」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「子どもの次の学校や将来の仕事などが心配だ」の割合が 25.1%となっている。

日本での居住年数別にみると、5年～9年の人は「子どもの次の学校や将来の仕事などが心配だ」、「高校や大学の入学試験制度、奨学金や学費がわからない」、「子どもが親の国の言葉を話せないことが心配だ」、10年以上の人は「子どもの次の学校や将来の仕事などが心配だ」の割合が他と比べて高い。

図表 5 2 子育てや学校で困っていること（複数回答）



図表 5 3 日本での居住年数別にみた子育てや学校で困っていること（複数回答）



※「子どもはいない」を除いて集計

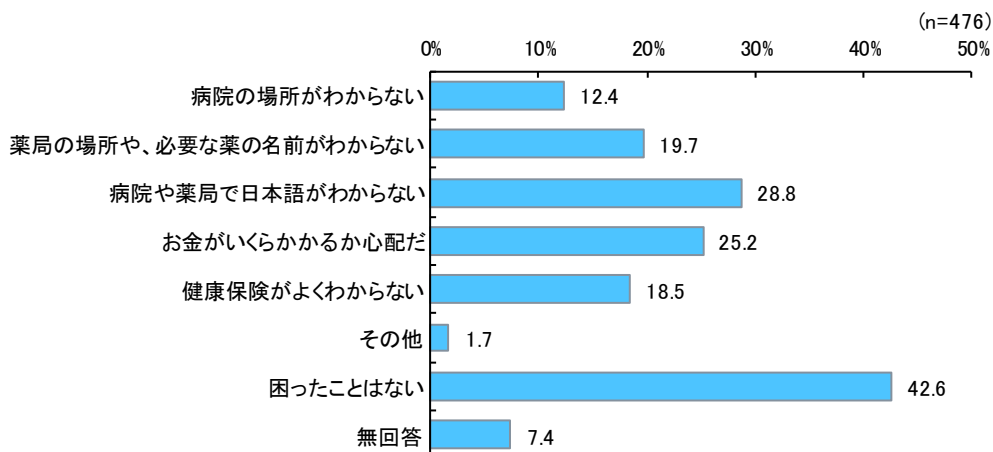


## ②1 病院や病気、薬で困っていること

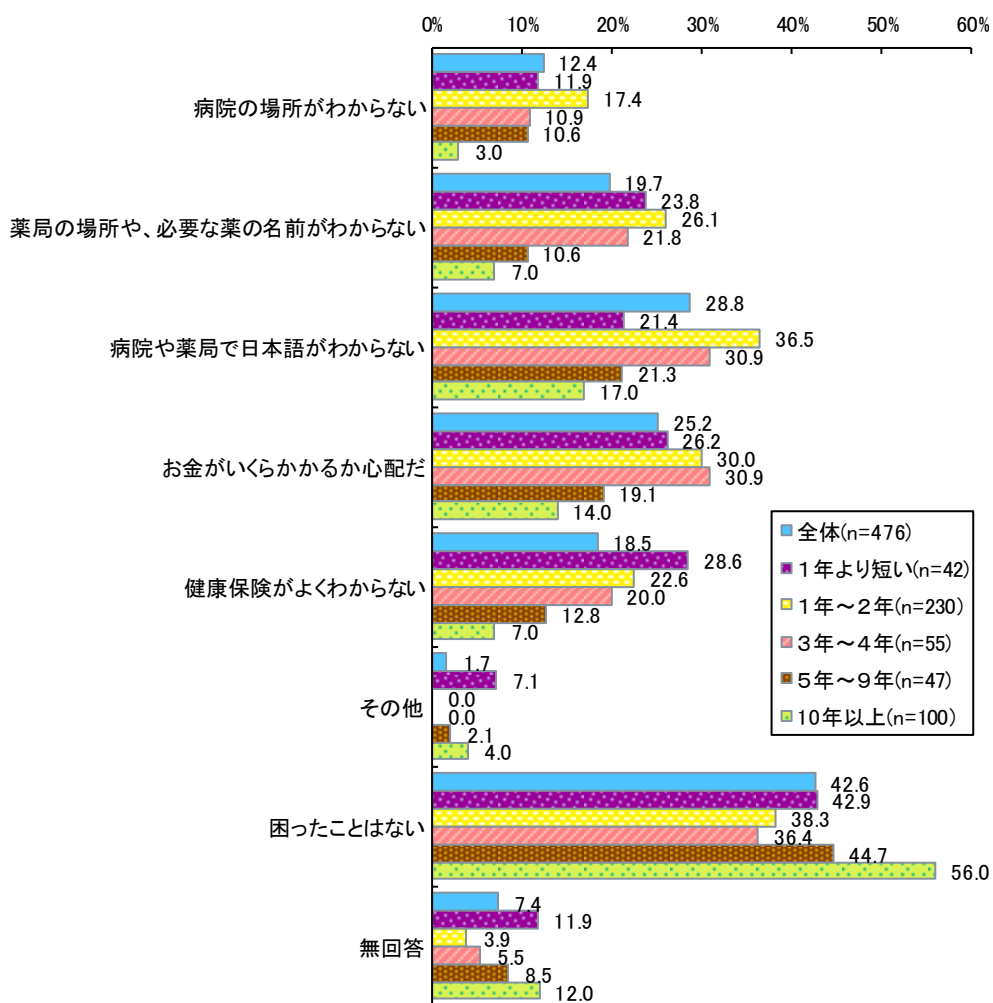
「困ったことはない」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「病院や薬局で日本語がわからない」が 28.8%、「お金がいくらかかるか心配だ」の割合が 25.2%となっている。

日本での居住年数別にみると、1年より短い人は「健康保険がよくわからない」、1年～2年は「病院や薬局で日本語がわからない」、「薬局の場所や、必要な薬の名前がわからない」、「病院の場所がわからない」、10年以上は「困ったことはない」の割合が他に比べて高い。

図表 5 4 病院や病気、薬で困っていること（複数回答）



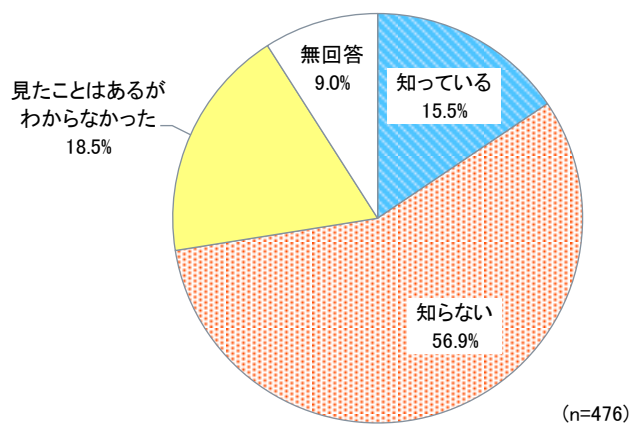
図表 5 5 日本での居住年数別にみた病院や病気、薬で困っていること（複数回答）



## ②ハザードマップの認知度

ハザードマップについて 56.9%が「知らない」と回答している。

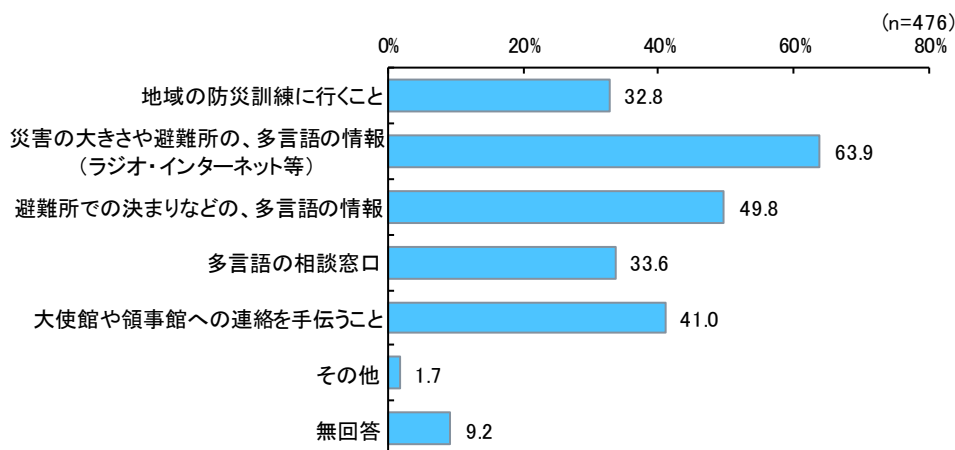
図表 5 6 ハザードマップの認知度



## ③災害前の準備や災害発生時に望む支援

「災害の大きさや避難所の、多言語の情報（ラジオ・インターネット等）」の割合が最も高く、63.9%となっている。

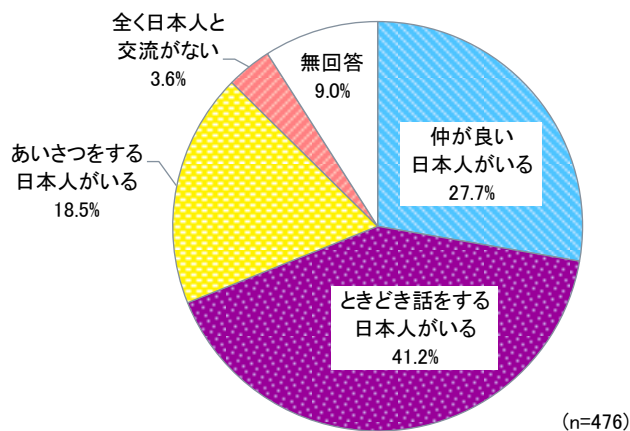
図表 5 7 災害前の準備や災害発生時に望む支援（複数回答）



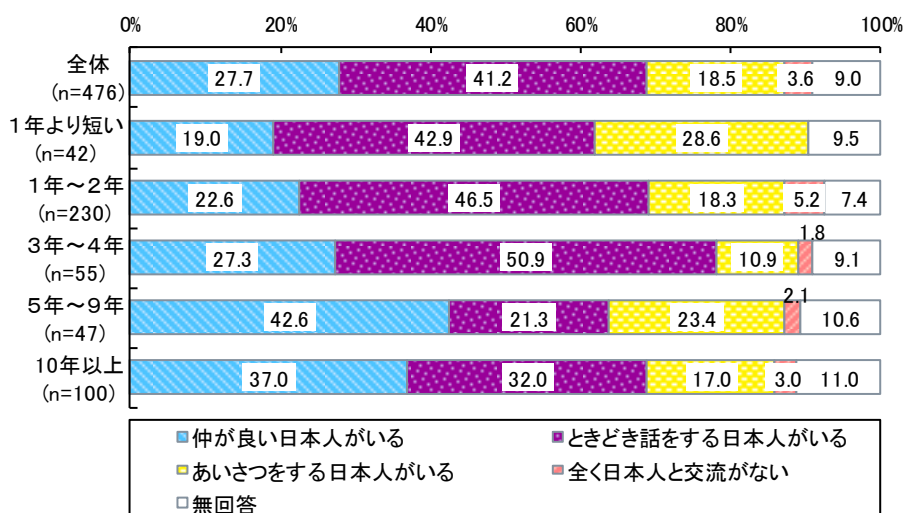
④日本人との関わり

「ときどき話をする日本人がいる」の割合が最も高く、41.2%となっている。  
 日本での居住年数別にみると、5年以上の人は「仲が良い日本人がいる」割合が他に比べて高い。

図表 58 日本人との関わり



図表 59 日本での居住年数別にみた日本人との関わり

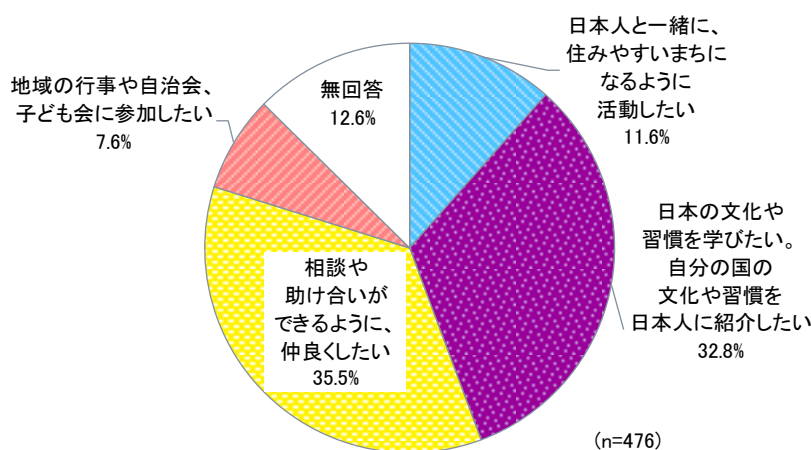


## ㊸日本人との交流に関する希望

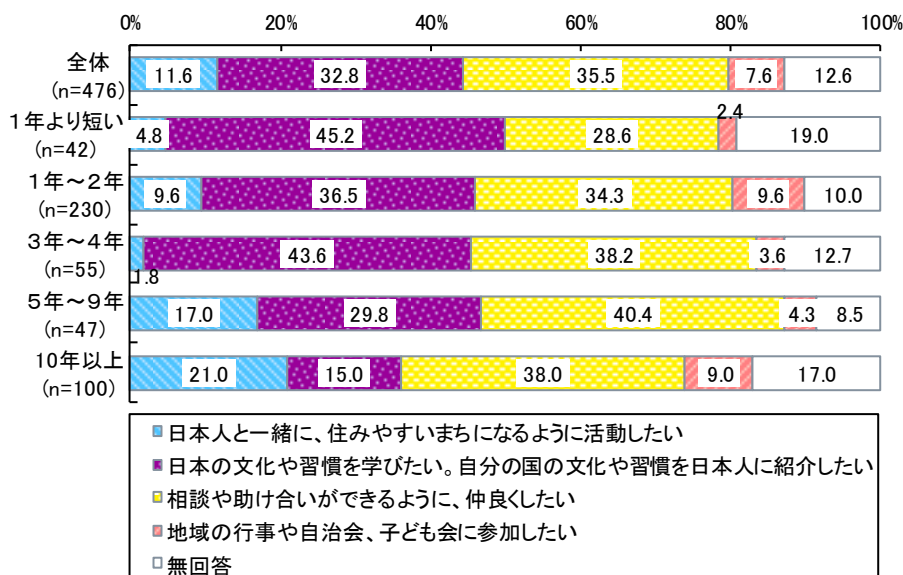
「相談や助け合いができるように、仲良くしたい」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「日本の文化や習慣を学びたい。自分の国の文化や習慣を日本人に紹介したい」の割合が 32.8%となっている。

日本での居住年数別にみると、1年より短い人は「日本の文化や習慣を学びたい。自分の国の文化や習慣を日本人に紹介したい」、10年以上の人は「日本人と一緒に、住みやすいまちになるように活動したい」の割合が他に比べて高い。

図表 60 日本人との交流に関する希望



図表 61 日本での居住年数別にみた日本人との交流に関する希望



## ②⑥自由記述

### <日本語学習に関するもの>

- ・ 姫路市の日本語教室は数が少なく、住んでいる地域の近くの公民館には日本語教室が設置されていない。外国人同士の友達や文化の交流の場にもなるので増やしてほしい
- ・ 夜の時間帯に授業を行う日本語教室の開催が必要
- ・ シングルマザーに無料で日本語の勉強を受けさせてほしい
- ・ 日本生まれ、日本育ちの子どもがいるが、自国語と日本語の両立は難しく国語の能力が気になる

### <日本人との交流に関するもの>

- ・ 語学学校の他には、日本人と交流する場が多くない。日本人と交流できるイベントが無料で定期的であればいい
- ・ 日本人の友達をもっと作りたいが、なかなかチャンスがない

### <収入・経済状況に関するもの>

- ・ 給料が安い
- ・ コロナの影響で収入が不安定になり、生活水準が急激に低下している
- ・ 残業してお金をたくさん稼ぎたい

### <税金に関するもの>

- ・ 税金の減免制度について詳しく案内してほしい
- ・ 日本の税金が高すぎる

### <相談窓口・支援に関するもの>

- ・ 外国人留学生に対する自治体・市の支援制度についてもっと知りたい
- ・ コロナのため、生活に困っている外国人のための相談窓口を提供してほしい
- ・ 労働者の権利等について外国語で支援・アドバイスが必要
- ・ 法律に関する知識を学んだり、法律問題について相談したりしたい
- ・ 外国人が安心して仕事、子育てができるように、姫路市が入国管理局と協力し、サポートしていただきたい

### <多言語対応に関するもの>

- ・ 法律や政策について理解が難しいときがあり、転入時に外国語で説明する資料がほしい
- ・ 日本での生活上注意すべきこと、知ってるべきこと等大事な情報について正しく翻訳・通訳してほしい
- ・ 日本語が十分理解できないため、病院、学校、行政機関等の手続きが非常に困っている
- ・ 日本語がわからないので、子どもの妊娠、出産などの手続きが難しかった
- ・ 災害、感染症などに関する情報については、多言語で発信してもらいたい
- ・ 行政機関の窓口、学校、病院等でベトナム語対応できる通訳スタッフ等がいれば助かる
- ・ 地域の掲示板が日本語のみで理解できない
- ・ 外国人だからということで、ベトナム語のお知らせをもらった。フィリピン人なので何が書いてあるのかわからない
- ・ バスの停留所とバスの名前が他の言語でもあると助かる

< 求職に関するもの >

- ・ 転職方法や日本語がわからず、新しい仕事を探すのがとても困難な状況である。ハローワークに多言語対応できるスタッフがいれば助かる

< 各種手続きに関するもの >

- ・ 保険・年金・税金の支払いがわからないときがある
- ・ 在留資格の更新等が難しい
- ・ 銀行口座の開設から日本の ATM の使い方、インターネットのセットアップや SIM カード・電話プランのような基本的な事柄がわからなかった

< 差別・偏見に関するもの >

- ・ 子どもは日本で生まれたのに外国人だとよく注意されるので非常に困っている
- ・ 技能実習生に対して、差別的な考え方を持っている日本人がいるのでやめてほしい
- ・ 職場において、給料や福利厚生面で日本人と差別されることが多数ある
- ・ 外国人を軽視している人がいてストレスを感じている

< 宗教的配慮に関するもの >

- ・ イスラム教徒なので、妊娠・出産時に女医を探すのに困った
- ・ 市内にイスラム教の礼拝室、ハラール店やハラールレストランが欲しい

< 大使館での手続きに関するもの >

- ・ ベトナム国籍なのでパスポート更新、結婚届等母国に関する手続きをするときは、在日ベトナム大使館に行くことになるが、大使館が遠いので不便

< コロナ禍での帰国に関するもの >

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、帰国できるかどうか心配している

### (3) アンケートから見える課題

#### ① 日本人の調査結果より

- ・ 国際交流のボランティア活動に参加している人は、前年度調査とほぼ関わらず、活動参加者が広がっていない状況である。参加したことがない人の中にも、参加意向のある人がいるため、積極的に情報提供を行い、活動参加を促すことが必要である。
- ・ 市役所の国際化対応、外国人との交流機会、国際理解教育の機会などを少ないと感じている人が多い状況である。市や財団が行う多文化共生に関する事業の認知度も低く、交流機会や市民向け講座の機会を充実させるとともに、多くの人に参加してもらえるよう、広く情報発信をしていく必要がある。
- ・ 地域の外国人とのトラブルを経験したことがある人は、そうでない人に比べて、外国人が増えることでトラブルが起こる可能性がある、治安が悪化する可能性があると考えられる割合が高く、外国人にネガティブな印象を持っていると考えられる。文化や習慣の違いや、コミュニケーションのとりにくさにより、すれ違いが生まれやすいことから、日本人と外国人とのトラブルに対して、相談、対応できる体制を作り、お互いに気持ちよく過ごせる環境を作ることが大事である。

#### ② 外国人の調査結果より

- ・ 居住年数が浅い人は、日本語能力が低く、各種支援の必要度が高いにも関わらず、姫路市文化国際交流財団の日本語の教室、外国人相談センターの認知度が低い状況にある。姫路市に住民登録をした際に、多言語で丁寧に説明したり、居住年数の浅い人の情報源となっている職場や学校に情報提供を行い、職場や学校を通じて情報を周知する必要がある。
- ・ 生活相談全般について、外国人相談センターの周知を図り、困りごとがあった際に、相談、対応していく必要がある。
- ・ ハザードマップの認知度が低いことから、外国人にハザードマップを知ってもらい、地域の災害リスクを知ってもらうとともに、災害発生前の準備や災害発生後の避難方法などについても情報発信する必要がある。
- ・ 居住年数が浅い人は日本の文化や習慣を学んだり、母国の文化や習慣を日本人に紹介したりしたいというニーズが高く、日本人との交流の機会や文化を紹介し合う場を作ることが必要である。
- ・ 居住年数 10 年以上の人では、日本人と一緒に活動したいという割合も高く、地域活動への積極的な参加や、外国人と日本人をつなぐための活動、外国人の通訳等、さまざまな活躍の場を提供していくことが必要である。